

ロームシアター京都 2024年度(令和6年度) 自主事業ラインアップ

ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
2024年3月21日 報道発表資料

【本リリースに関するお問合せ先】

ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

広報担当：儀三武、加藤陸、山形

電話：075-771-6051（10:00～17:00） FAX：075-746-3366

E-mail：press@rohmtheatrekkyoto.jp <https://rohmtheatrekkyoto.jp/>

ロームシアター京都 2024 年度 自主事業ラインアップ

作品創造	Sound Around 0043 2024 年度全国共同制作オペラ 歌劇「ラ・ボエーム」4 レパートリーの創造 市原佐都子/Q 新作公演5 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XXI ヴェルディ：歌劇「椿姫」 ROHM CLASSIC SPECIAL6 レパートリー作品 高谷史郎（ダムタイプ）『Tangent（タンジェント）』エストニア公演7 アンディ・マンリー『ベック』全国ツアー8
京響プログラム	オーケストラ・ディスカバリー 2024 9 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2024「ドン・パスクワレ」10 クラシック x ジャズ 大西順子 meets 京都市交響楽団11
伝統芸能の継承	市民寄席12 第 73 回京都新能 一光源氏の夢13 能の世界へおこしやす 一京都新能鑑賞のための公開講座— 能楽チャリティ公演 ～祈りよとどけ、京都より～14 対談企画 ～芸能の在る処～
ロームシアター京都 セレクトジョン	ノエ・スーリエ『The Waves』15 RYUICHI SAKAMOTO + SHIRO TAKATANI『TIME』17 KAAT 神楽川芸術劇場プロデュース『ライカムで待っとく』18 COCOON PRODUCTION 2024『ふくすけ 2024 —歌舞伎町黙示録—』19 加藤訓子プロデュース「スティーヴ・ライヒプロジェクト kuniko plays reich II / DRUMMING LIVE」20 ロームシアター京都 x 京都芸術センター U35 創造支援プログラム “KIPPU” 2024 年度参加アーティスト ①プロトテアトル ② Dr. Holiday Laboratory21 KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 202423 ラシッド・ウランダン『Corps extrêmes —身体の極限で—』24 マルコ・ダ・シウヴァ・フェレイラ『Carcaça』25 ドレスデン・フランクフルト・ダンスカンパニー ヤニス・マンダフニス & マノン・パランソロダンス『SCARBO』26 トリコ・A『穴』27
ラーニング	劇場の学校28 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XXI 子どものためのオペラ ヴェルディ：歌劇「椿姫」より ローム クラシック スペシャル29 舞台芸術プロデュース講座～演劇・ダンス編～30 ロームシアター京都 x 京都市ユースサービス協会連携事業 未来のわたし - 劇場の仕事 - リサーチプログラム
コミュニティ	ホリデーパフォーマンス31 プレイ！シアター in Summer 2024 ステージプログラム ミッドナイトシアター『はじめての一步』 from アイスランド32 プレイ！シアター in Summer 2024 オープンデイ33 プレイ！シアター in Summer 2024 京都市交響楽団 0 歳からの夏休みコンサート 全京都洋舞協議会 65 周年記念公演34 OKAZAKI PARK STAGE 2024 ユスカル！～若者文化市～ 2024 ロームシアター京都 x 京都市文化会館連携事業「シアターデビュー！」促進プログラム ナイブ人形劇場『こいぬと機関車—CHOO.CHOO.WHISTLE.WOOF!—』 from チェコ35 となりの劇場 ～シニア向け演劇ワークショップ～36 アセンブリープログラム WEB マガジン「Spin-Off（スピンオフ）」 音楽総合体験施設 ミュージックサロン
アクセシビリティ	アクセシビリティ情報37

| 2024 年度自主事業ラインアップテーマ

好奇心の入口、世界への出口

2024 年度の自主事業ラインアップには、国内外のアーティストによる旺盛な探究心と知的冒険に満ちたプログラムが並んでいます。

劇場の財産となる作品をプロデュースするシリーズ「レパトリーの創造」では、社会に対する違和感を鋭い感性と確かな筆力で描き出す、市原佐都子が新作を発表します。さまざまな状況にある女性たちへのインタビューやその身体を巡るフィールド・リサーチを経て放たれる、書き下ろしです。日本と韓国の俳優、スタッフのコラボレーションにもご期待ください。そして、京都市交響楽団・第9代常任指揮者（1990年4月～1998年3月）を務めた、井上道義によるオペラ「ラ・ボエーム」を全国の7つの公共劇場、7つのオーケストラとの共同制作で実現します。2024年12月で指揮者活動の引退を公表している井上にとって、最後のオペラであり、ロームシアター京都初登場にして、最後のロームシアター京都の舞台です。

また、身体表現の多様さを実感し、楽しんでいただけるダンスプログラムが海外からやってきます。まずは、名門ダンスカンパニーからの振付オファーが続く、注目のノエ・スーリエ。次に、シャイヨー国立劇場ディレクター、ラシッド・ウランタンによる超絶技巧満載の舞台。ダンス界の新星と呼び声が高いマルコ・ダ・シウヴァ・フェレイラ、ドレスデン・フランクフルト・ダンスカンパニー芸術監督のヤニス・マンダフニスの作品が続きます。さらに、子どもたちからシニア世代までを対象とした出会いや学びのプログラムを充実させ、ここで生まれる人々のネットワークをコミュニティへと発展させるべく、観客や地域とのより密接な関係を築いていくことを目指します。

現代の私たちは、何かひとつの答えを求めたり、求められたりすることが増え、さらに、固定観念や既存のルールに縛られ、好奇心を持ち続けることさえ困難になっているかもしれません。好奇心の始まりは、自分がまだ知らないことや周りの人たちに目を向けることです。アーティストたちもそれぞれの好奇心から、リサーチやクリエイションを進め、それらを集積することによって舞台を生み出しています。彼ら彼女らが差し出す作品やその活動に触れることによって、心や頭、身体が揺さぶられ、質問や疑問が溢れ出すことは、一歩進んだ探究の始まりです。劇場というプラットフォームが、「好奇心の入口」となり、さまざまなクエスチョンが生まれ、日々話題がひとつ増え、そして、人々が新たな夢や目標を持つきっかけになるなど、広い「世界への出口」になればと考えています。

2024 年度もぜひロームシアター京都の活動にご注目ください。劇場でお会いしましょう！

2024 年 3 月 21 日
プログラムディレクター 小倉由佳子

2024年度自主事業ラインアップ 6つの事業カテゴリ

① 作品創造

劇場の財産となる作品のプロデュースや国内外のアーティストとの協働により、ロームシアター京都を創造の場として活かした事業を展開します。

② 京響プログラム

ロームシアター京都は京都市交響楽団の第2のフランチャイズホールです。音楽のみならず他ジャンルとのコラボレーションなどで京響の新たな魅力を広げます。

③ 伝統芸能の継承

日本舞踊、能楽、文楽、雅楽といった古典芸能に加え、地域ごと継がれてきた民俗（郷土）芸能を独自の切り口で紹介し、伝統芸能の面白さを伝えます。

④ ロームシアター京都セレクション

国内外からの選りすぐりの舞台芸術作品をご紹介します。次代を担う若手アーティストの創造支援やKYOTO EXPERIMENT などさまざまな施設や団体と連携して行うプログラムもあります。

⑤ ラーニング



小中高生、それぞれの年代に応じた育成事業を展開するほか、舞台芸術に関わるレクチャーやリサーチを創作・実践の場と連動して行います。

⑥ コミュニティ

多様なライフスタイルと密着したプログラムや、ホールを飛び出して行う事業などを通して、他の施設や団体と連携を深め、地域の活性化に繋がります。

アクセシビリティ

ロームシアター京都ではお客様の観劇に際して、観劇サポートを実施しております。詳細は p.36 を参照ください。

音声ガイド： ポータブル字幕機： ヒアリンググループ： 託児サービス：

事業課メンバー紹介

ロームシアター京都 事業課



撮影：山地憲太

<メンバー（2024年3月現在）>

後列（左より）

柘谷雄一郎、小倉由佳子（プログラムディレクター）、成瀬はつみ、加藤陸、蒼森彩加

前列（左より）

木原里佳、垣田みずき、近藤眞音、寺田貴美子、山形ゆき、儀三武桐子

Sound Around 004

主催 音楽

日程：6月29日（土）17:00 開演
30日（日）15:00 開演
会場：ノースホール

シリーズ第4弾は荒木優光

多彩な出演者と劇場空間をフルに活かしたパフォーマンスで「音 - 音楽」の境界を探ります

音楽を軸とし、ジャンルや固定観念にとらわれない表現活動を行うアーティストによるパフォーマンスシリーズの第4弾。今回メインアーティストを務めるのは、聴くことの創造性をユーモラスに追求し、パフォーマンスやインスタレーションなどの多岐にわたる作品を発表している荒木優光です。音に関する体験や環境に着目し、音楽と結びつけることで文脈の再考を促してきた荒木が、その原点に立ち返り、多彩な出演者と劇場空間をフルに活かした新作パフォーマンスを発表します。わたしたちを取り巻く音の総体について、身近な視点から分解・観察することでみえてくる「音 - 音楽」の境界とともに漂うプログラムです。

テーマ | げんし

原始 自然のまま、未発達、未開発、おおもと、はじめ
原子 最小の微粒子 アトム 事物を構成する微小存在
幻視 実際にはないものがあたかもあるように見えること

空き地は開かれる

空き地に家を建てるとなれば、その作業が始まる。工務店や建築士、大工さんなどがわらわらと来ることになる。そこで、家を建てることを全員が忘れてらどうなるだろうか、と想像してみたい。持ってきた資材はある。工具はある。防音シートもある。腕利きの大工さんも職人さんもいる。謎の凶面もある。程なくして建築士や工務店の担当者も車でやってきて、ヘルメット被って、やはり空き地で全部忘れた。その時の、顔、佇まい、それぞれの立ち位置。ヘルメットとは。もちろん、帰ることもできる。でも、気になると思う。何故我々はここに来ているのか。帰らずに、その宙吊りにされた状態で「何か忘れてる気がするけど、思い出せず」に静かにもがき続けたい。電動ノコギリで木材を切り、立ててみたり、接合してみたり、転がしたり、時には数人でやってみたり。足場を組んで高い所で寝転んだり、工具を飾ってみたり、ただ電動ノコギリを回して皆で見たり、火花を楽しんだり…。そういった状態を、何だと言えようか。この、家になりそうな気配ムンムンで、家になり得そうにない、でも奇跡的に家になるかもしれない、ここへ、まずは行きたい。そうして当て所なく、狭間のような時空間で生じる音響・サウンドスケープは、我々にどのような幻視をもたらすのだろうか。

荒木優光



photo: Kai Maetani

荒木優光 Masamitsu Araki

1981年山形県生まれ、京都市在住。アーティスト、サウンドデザイナー、音楽家。音楽の周縁に立つことを起点として、音や映像、声、サイトスペシフィックな要素を取り入れた作品をインスタレーションやパフォーマンス、コンサート、ツアー、音源など多岐にわたる形態で発表する。近年の個展に「ダンスしないか？」（長野県立美術館アートラボ、長野、2022）、「そよ風のような、出会い」（gallery α M、東京、2022）、「わたしとゾンビ」（京都市京セラ美術館ザ・トライアングル、京都、2020）がある。グループ展に「モノラルズ」（WHITEHOUSE、東京、2023）、「200年をたがやす」（秋田市文化創造館、秋田、2022）、「としのこえ、とちのうた」（旧豊田市東高等学校、豊田、2019）など。コンサートやパフォーマンス作品に「Paradise Lost」（SPA of Narratives、城崎国際アートセンター、2023）、「サウンドトラックフォーミッドナイト」（KYOTOEXPERIMENT 2021 AUTUMN、比叡山山頂駐車場）、「パブリックアドレス 音場」（Kunstenfestivaldesarts 2021、ブリュッセル）、「ゾンビとサウンドトラック」（京都市京セラ美術館 講演室、京都、2021）など。また、サウンドデザイナーとしてのコラボレーションも多く、アーティストコレクティブ ARCHIVES PAY、音楽グループ NEW MANUKE のメンバーとしても活動する。

チケット情報

全席自由

一般 2,500 円、ユース（25 歳以下）1,500 円、18 歳以下 1,000 円

[4月20日（土）チケット一般発売開始]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

2024 年度全国共同制作オペラ
歌劇「ラ・ボエーム」

主催

音楽



日程：10月6日（日）14:00 開演

会場：メインホール



画・森山開次

井上道義、“最愛”にして“最後”のオペラ！
盟友・森山開次とともに描く、若き芸術家たちの躍動

芸術の都パリを舞台に、若く貧しい芸術家たちの愛と夢を描いた青春群像劇《ラ・ボエーム》は、「冷たい手を」、「私の名はミミ」、「私が街を歩けば」の名アリアをはじめ、名メロディメーカー・プッチーニの美しく魅力的な旋律が全編を彩る傑作。

2024 年末での引退を宣言している指揮者・井上道義が、自身最後となるオペラに選んだのは“最愛のオペラ”と語る《ラ・ボエーム》の新制作。演出には、深い信頼を寄せる舞踊家・演出家の森山開次を指名。幾多のコラボレーションで次々と鮮やかなステージを生み続けてきた名コンビが、日本&海外混成による新進気鋭の歌手陣とともに、創造とイマジネーションあふれる新たな舞台を全国7都市から世界へ発信する。芸術を愛する全ての人に贈る、特別な《ラ・ボエーム》が2024 年秋、幕を開ける。

演目：歌劇「ラ・ボエーム」
(全4幕、イタリア語上演、日本語・英語字幕付き、新制作)
作曲：ジャコモ・プッチーニ
台本：ジュゼッペ・ジャコーサ、ルイージ・イッリカ
指揮：井上道義
演出・振付・美術・衣裳：森山開次
管弦楽：京都市交響楽団
合唱：きょうと+ひょうごプロデュースオペラ合唱団、京都市少年合唱団

<全国共同制作オペラシリーズとは>

全国の劇場・音楽堂、芸術団体等が連携し、単館では成しえない、独創的かつ高いレベルのオペラを新演出で制作するプロジェクト。2009 年度から開始し、近年では野田秀樹演出のモーツァルト『フィガロの結婚』（2015 年度/全国10都市13公演、2020 年度/3都市3公演）、森山開次演出の『ドン・ジョヴァンニ』（2018 年度/3都市4公演）、野村萬斎演出の『こもり』（2023 年度/3都市3公演）など実績を積んでいる。



© Yuriko Takagi

井上道義 Michiyoshi Inoue

1946 年東京生まれ。桐朋学園大学卒業。ニュージーランド国立交響楽団首席客演指揮者、新日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督、京都市交響楽団音楽監督兼常任指揮者、大阪フィルハーモニー交響楽団首席指揮者、オーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督を歴任。2007 年ショスタコーヴィチ交響曲全曲演奏プロジェクトを企画立案。2014 年4月病に倒れるが、同年10月に復帰を遂げる。近年では、全国共同制作オペラ「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」、大阪国際フェスティバル「バーンスタイン：ミサ」、「井上道義：A Way from Surrender ～降福からの道～」等を、いずれも総監督として率い既成概念にとらわれない唯一無二の舞台を作り上げている。2018 年「大阪府文化賞」「大阪文化祭賞」「音楽クリティック・クラブ賞」、2019 年 NHK 交響楽団より「有馬賞」、2023 年「第54回サントリー音楽賞」を受賞。オーケストラ・アンサンブル金沢桂冠指揮者。2024 年12月にて指揮活動の引退を公表している。



©石塚定人

森山開次 Kaiji Moriyama

2005 年自ら演出振付出演するソロダンス『KATANA』でニューヨークタイムズ紙に「驚異のダンサー」と評され、2007 年ヴェネチア・ビエンナーレ招聘。2013 年『曼荼羅の宇宙』で芸術選奨新人賞他三賞受賞。同年文化庁文化交流使。2019 年『ドン・ジョヴァンニ』（総監督・指揮：井上道義）でオペラ初演出。2020 年新国立劇場バレエ団『竜宮』演出振付美術衣裳。2021 年東京 2020 パラリンピック開会式演出・チーフ振付。能・雅楽など伝統芸能とのコラボレーション、AI ピアノとの共演など実験的なプロジェクトに多数取り組む傍ら、映画・広告・テレビなどジャンルを自在に横断し活動。現代のダンスシーンを牽引するアーティストの一人である。

チケット情報

全席指定

一般 SS 席 13,000 円、S 席 11,000 円、A 席 8,000 円、B 席 6,000 円、C 席 4,000 円、D 席 3,000 円、

ユース（25 歳以下）S 席 5,000 円*、18 歳以下 S 席 3,000 円* ※枚数限定 [4 月 21 日（日）チケット一般発売開始]

主催：ROOMシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市
共同制作：公益財団法人東京都歴史文化財団東京芸術劇場、公益財団法人名取市文化振興財団、ROOMシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、兵庫県立芸術文化センター、公益財団法人熊本県立劇場、公益財団法人金沢芸術創造財団、ミュゼ川崎シンフォニーホール（川崎市文化財団グループ）、公益財団法人読売日本交響楽団、公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団、京都市交響楽団、兵庫県立芸術文化センター管弦楽団、公益財団法人九州交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢（公益財団法人石川県音楽文化振興事業団）、公益財団法人 東京交響楽団

<他地域での公演>

東京公演 9月21日（土）、23日（月・休）東京芸術劇場コンサートホール

熊本公演 10月19日（土）熊本県立劇場演劇ホール

宮城公演 9月29日（日）名取市文化会館大ホール

金沢公演 10月26日（土）金沢歌劇座

兵庫公演 10月12日（土）兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

神奈川公演 11月2日（土）ミュゼ川崎シンフォニーホール

レパトリーの創造

市原佐都子 / Q 新作公演

主催

演劇



日程：2025年2月中旬

会場：ノースホール



『妖精の問題 デラックス』（2022年1月）より 撮影：中谷利明

次代を牽引する劇作家・演出家、市原佐都子による書き下ろし新作

「レパトリーの創造」は、2017年度から取り組んでいるプログラムです。公立劇場が主体的に作品制作に取り組み、劇場のレパトリー演目として時代を超えて末長く上演されることを念頭にプロデュースしています。第8作目は、人間の生と性に関わる違和感を大胆かつ緻密に描く、市原佐都子の新作を発表します。

市原は近年、ノイマルクト劇場（チューリヒ）との共同制作『Madama Butterfly』（2021年初演）や、「世界演劇祭 2023」での『弱法師』（2023年初演）など、オペラや能で親しまれてきた演目を原案に、現代の私たちの姿として大胆に捉えなおし、社会的タブーに切り込みながら、人間の本質とは何かを問いかける話題作を発表しつづけています。

ロームシアター京都では、2022年1月に、市原の代表作のひとつ『妖精の問題』を『妖精の問題 デラックス』として新たな創作メンバーとともに再創作しました。自虐や偏見に満ち溢れた世界をコミカルに描きながら、社会の中で意識的／無意識的に目を逸らしていることがらを執拗にえぐり出した本作は、観客を捉えて離さない強烈なメッセージが潜む作品となりました。

同シリーズでの市原作品第2弾となる今作は、韓国・ソウルと日本でのフィールド・リサーチを経て書き下ろす新作です。市原にとって初めての試みでもある創作プロセスから生まれる意欲作です。

作・演出：市原佐都子



© Bea Borgers

市原佐都子 Satoko Ichihara

劇作家・演出家・小説家・城崎国際アートセンター芸術監督。1988年大阪府生まれ福岡県育ち。桜美林大学にて演劇を学び、2011年よりQ始動。人間の行動や身体にまつわる生理、その違和感を独自の言語センスと身体感覚で捉えた劇作、演出を行う。2011年、戯曲『虫』にて第11回AAF戯曲賞受賞。2017年『毛美子不毛話』が第61回岸田國士戯曲賞最終候補となる。2019年に初の小説集『マミトの天使』を出版。同年『パッコス信女ーホルスタインの雌』をあいちトリエンナーレにて初演。同作にて第64回岸田國士戯曲賞受賞。2021年、ノイマルクト劇場（チューリヒ）と共同制作した『Madama Butterfly』をチューリヒ・シアター・スペクタクル、ミュンヘン・シュピラート演劇祭、ウィーン芸術週間他にて上演。2023年には最新作『弱法師』を世界演劇祭（ドイツ）にて初演し、国内で高知・豊岡・東京を巡演。

チケット情報

全席自由、料金未定

[10月12日（土）チケット一般発売開始]

企画製作：ロームシアター京都

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XXI ヴェルディ：歌劇「椿姫」 ROHM CLASSIC SPECIAL

日程：2025年3月14日（金）、16日（日）
時間未定 全2回公演
会場：メインホール

主催

音楽



© Kaylene Fu



© Diana Guledani



© Dario Acosta

世界の小澤征爾による後進育成プロジェクト「小澤征爾音楽塾」、2025年は名作「椿姫」

世界的な指揮者であった小澤征爾が、みずからの音楽経験を後進の若手音楽家に伝える目的で、2000年に立ち上げた教育プロジェクト「小澤征爾音楽塾」。第21回目となる2025年のオペラ・プロジェクトでは、ヴェルディによる歌劇「椿姫」を上演します。「椿姫」は、パリ社交界を舞台に、高級娼婦ヴィオレッタが迎える愛と哀しみの運命を描いたオペラ。当時のパリを生き抜くヒロインの感情表現が見どころで、世界中から愛されつづけています。

2024年のオペラ・プロジェクトXX モーツァルト 歌劇「コジ・ファン・トゥッテ」に続き、演出はデイヴィッド・ニース、装置・衣裳はロバート・パージオーラ、指揮は小澤征爾音楽塾首席指揮者のディエゴ・マテウスです。日本をはじめアジア各国からのオーディションを経て選出され、サイトウ・キネン・オーケストラメンバーらの熱い指導を受けて大きく成長する小澤征爾音楽塾オーケストラが演奏を務めます。

オペラのなかでも屈指の人気を誇る名作「椿姫」。小澤征爾音楽塾による公演をお見逃しなく。

演目：歌劇「椿姫」（全3幕、イタリア語上演、日本語字幕付）

作曲：ジュゼッペ・ベルディ

創設者／永久音楽監督：小澤征爾

指揮：ディエゴ・マテウス（小澤征爾音楽塾首席指揮者）

演出：デイヴィッド・ニース

装置・衣裳：ロバート・パージオーラ

管弦楽：小澤征爾音楽塾オーケストラ

ヴィオレッタ・ヴァレリー役：ニーナ・ミナシアン

アルフレード・ジェルモン役：カン・ワン

ジョルジョ・ジェルモン役：クイン・ケルシー 他



© Shintaro Shiratori

小澤征爾音楽塾とは

小澤征爾音楽塾は、ローム株式会社の佐藤研一郎社長（当時）と小澤征爾がオペラを通じて若い音楽家を育成することを目的に、2000年に立ち上げた教育プロジェクトです。恩師カラヤンの教えである「交響曲とオペラは車の両輪のようなもの」を持論とする小澤が「教えること」に生涯を捧げたもう一人の恩師齋藤秀雄のスピリットを受け継ぎ、若い音楽家たちとともに学ぶ場として開催しています。毎年、国内外でのオーディションで選ばれたアジア諸国（日本、中国、台湾、韓国）の若い音楽家たちでオーケストラと合唱団を結成し、小澤征爾とサイトウ・キネン・オーケストラメンバーをはじめとする演奏家のもとで指導を受け、分奏や歌手とのリハーサルを重ねながら、世界の歌劇場で活躍するオペラ歌手や演出家と共に高水準のオペラ「小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト」を創り上げます。

チケット情報

席種・料金・発売日未定

主催：小澤征爾音楽塾／ヴェローザ・ジャパン

京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

共催：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

協賛：ローム株式会社

企画・制作：ヴェローザ・ジャパン

レパートリー作品

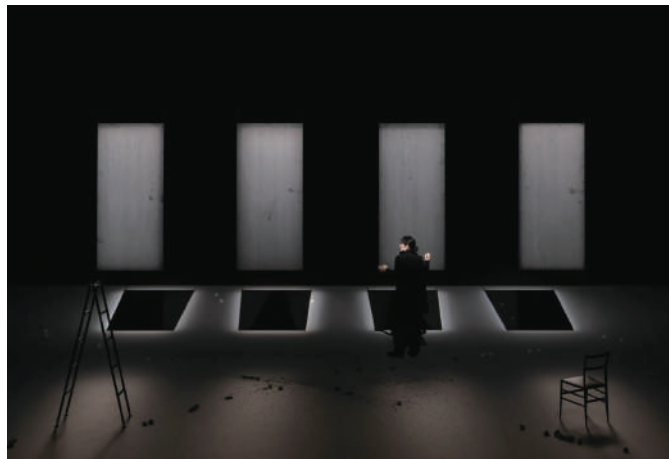
高谷史郎 (ダムタイプ)

『Tangent (タンジェント)』エストニア公演 欧州文化首都タルトゥ 2024

美術・映像

日程：6月4日(火)、5日(水)

会場：ヴァネムイネ劇場 (エストニア)



撮影：井上嘉和

ロームシアター京都レパートリーの創造で生みだされた
高谷史郎 (ダムタイプ) 8年ぶりの新作が早くも世界へ

ダムタイプのコアメンバーとして活躍し、パフォーマンスシーンに新たな可能性を開拓したメディア・アーティストの高谷史郎。2023年度にロームシアター京都レパートリー作品として、製作・上演された8年ぶりの新作『Tangent』が、「欧州文化首都 (European Capitals of Culture)」の主要プログラムとして、エストニアにて上演されます。

*「欧州文化首都」とは、1985年から続く、EUが指定した欧州の都市で一年間にわたり集中的に文化行事が展開される事業です。
*ロームシアター京都が製作した作品の他地域での上演です。

総合ディレクション：高谷史郎

プロジェクト・メンバー：

濱哲史、古舘健、白石晃一、細井美裕、南塚也

照明：吉本有輝子

舞台監督：大鹿展明

マネジメント：高谷桜子

音楽：坂本龍一

特別協力：KAB America Inc. (空里香、アレック・フェルマン)、
Kab Inc. (湯田麻衣)

高谷史郎 Shiro Takatani

1963年生まれ。京都市立芸術大学環境デザイン専攻卒業。84年からアーティストグループ「ダムタイプ」の活動に参加。さまざまなメディアを用いたパフォーマンスやインスタレーション作品の制作に携わり、世界各地の劇場や美術館、アートセンターで公演/展示を行う。98年からダムタイプの活動と並行して個人の制作活動を開始。パフォーマンス『明るい部屋』(初演：08年 ドイツ世界演劇祭)、『CHROMA』(初演：12年 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール)、『ST/LL』(音楽・坂本龍一ほか/初演：15年 フランス ル・ヴォルカン国立舞台)を制作。2022年、ダムタイプは坂本龍一をメンバーに迎え、ヴェネチア・ビエンナーレ日本館で新作を発表。2023年にはアーティゾン美術館でヴェネチア・ビエンナーレ帰国展を開催。2024年2月、個人としては新作パフォーマンス『Tangent』(音楽・坂本龍一/アルバム『12』より)をロームシアター京都で初演。

<『Tangent』上演歴>

[初演] 2024年2月9日(金)～2月12日(月・休) ロームシアター京都

製作：ロームシアター京都

制作：ダムタイプオフィス、ロームシアター京都

共同製作：Kanuti Gildi SAAL、欧州文化首都タルトゥ 2024 (エストニア)

アンディ・マンリー 『ペック』 全国ツアー

演劇

日程：7月初旬～8月8日（木）

会場：KAAT 神奈川芸術劇場、高槻城公園芸術文化劇場、
愛知県芸術劇場 他



© Mihaela Bodlovic

“とりのうたごえ” にさそわれて、見て聞いて楽しむ、
こどもとおとなのためのノンバーバルパフォーマンス

ロームシアター京都にて昨夏上演し好評を博したスコットランドの
アーティスト、アンディ・マンリーによるこども向け演劇公演が今
年は国内3地域にて上演。

おすすめ年齢：3～6歳 ※対象年齢以外の方も観劇可能

神奈川公演 7月初旬 KAAT 神奈川芸術劇場

大阪公演 7月13日（土） 高槻城公園芸術文化劇場

愛知公演 7月19日（金）～8月8日（木） 愛知県芸術劇場 他

*ロームシアター京都が製作した作品の他地域での上演です。

アンディ・マンリー Andy Manley

若い観客のためのパフォーマンスを専門とする、舞台アーティスト。2006年より自身の作品を創作し、以降イギリス国内外で多数の公演を行う。2011年には『ホワイト』にてUK Theatre Awards / 子供と若者のためのベストショーを受賞するなど、高い評価を受けている。日本では、世界中で伝説的なヒット作となった『ホワイト』や『ナイトライト』をりっかりっか*フェスタ（国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ）等で上演している。

< 『ペック from スコットランド』上演歴 >

2023年7月15日（土）～7月17日（月・祝） ロームシアター京都

2023年7月21日（金） 北九州芸術劇場

2023年7月24日（月）～26日（水） りっかりっか*フェスタ 那覇文化芸術劇場 なはーと

2023年7月30日（日） 山口情報芸術センター

共同製作：ロームシアター京都、一般社団法人エーシーオー沖縄、レッド・ブリッジ・アーツ

II オーケストラ・ディスカバリー 2024

共催

音楽

日程：6月16日(日)、9月1日(日)、12月1日(日)、
2025年3月30日(日) 全回 14:00 開演
会場：メインホール

© Hikaru Hoshi

© Marco Borggreve

© 平舘平

© Ayane Shindo

今年度のテーマは

「マエストロとディスカバリー！」

今年で16年目の「オーケストラ・ディスカバリー」。こどものためのオーケストラ入門として人気を博すシリーズを、今年度はロームシアター京都にて開催します。4人のすてきな指揮者とともに、オーケストラの楽しさをみなさんといっしょに分かち合いたいと思います。

さあ、親子そろって4公演を存分にお楽しみください。

第1回 ダンス・イン・ザ・クラウド

社交ダンスからラテンのリズムまで。思わず踊りたくなるダンス音楽の世界をマエストロ角田とディスカバリー♪

指揮：角田鋼亮

曲目：ヨハン・シュトラウスⅡ世：トリッチ・トラッチ・ポルカ 作品214
ヨハン・シュトラウスⅡ世：ワルツ「ウィーンの森の物語」作品325
ラヴェル：バレエ音楽「ラ・ヴァルス」
ピアソラ：アディオス・ノニーノ
ヤコブ・ゲーゼ：ジェラシー
アブレウ：ティコ・ティコ
ファリャ：歌劇「はかない人生」から「スペイン舞曲」
ガーシュウィン：キューバ序曲

第3回 シネマ・クラシックス

映画とクラシック音楽。切っても切れない関係をマエストロ横山とディスカバリー♪

指揮：横山奏

曲目：R. シュトラウス：交響詩「ツアラトウストラはこう語った」から冒頭（「2001年宇宙の旅」）
ブラームス（シュメリング編）：ハンガリー舞曲 第5番
ヨハン・シュトラウスⅡ世：ワルツ「美しく青きドナウ」作品314
マーラー：交響曲 第5番 嬰ハ短調 から
第4楽章「アダージェット」（「ベニスに死す」）他

第2回 ゼアー・ストーリーズ

プロコフィエフとメンデルスゾーン。それぞれのストーリーを、語りも入って、マエストロ鈴木とディスカバリー♪

指揮：鈴木優人

ナレーション：ウエンツ瑛士
独唱&ナレーション：高橋維（ソプラノ）、高野百合絵（ソプラノ）
合唱：京響コーラス（女声）
曲目：プロコフィエフ：ピーターとおおかみ
メンデルスゾーン：「夏の夜の夢」の音楽から

第4回 シンギング・ドリーマーズ

3名の歌手をお迎えし、ヨハン・シュトラウスⅡ世、モーツァルトほかの名曲をマエストロ松井とディスカバリー♪

指揮：松井慶太

独唱：船越 亜弥（ソプラノ）、迎 肇聡（バリトン）他
曲目：ヨハン・シュトラウスⅡ世：喜歌劇「こうもり」から
序曲
「侯爵様、あなたのようなお方は」
「一週間もただひとり」
レハール：喜歌劇「メリー・ウィドー」から「ヴィリアの歌」
モーツァルト：歌劇「魔笛」から
パパゲーノとパパゲーナの「パ・パ・パの二重唱」
「復しゅうの心は地獄のように胸に燃え」（夜の女王の aria）
フンパーディンク：歌劇「ヘンゼルとグレーテル」から抜粋

チケット情報

4回シリーズ通し券（指定席）おとな（19歳以上）11,000円、子ども（5歳以上18歳以下）5,000円
[チケット発売中（4月19日（金）まで）]

1回券（指定席・自由席）

指定席（1階&2階席）おとな（19歳以上）3,000円、子ども（5歳以上18歳以下）1,500円
自由席（3階&4階席）おとな（19歳以上）2,500円、子ども（5歳以上18歳以下）1,000円
[4月20日（土）チケット一般発売開始]

主催：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団、京都市

共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

協賛：ローム株式会社

後援：京都市教育委員会

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2024 「ドン・パスクワーレ」

日程：10月29日（火）、30日（水）
両日 13:00 開演
会場：メインホール

主催

音楽



撮影：寺司正彦 提供：新国立劇場

ドニゼッティの代表作「ドン・パスクワーレ」が 鑑賞教室に再び 悲喜こもごものドタバタ劇！

高校生のためのオペラ鑑賞教室では、ロームシアター京都の開館以来、「フィガロの結婚」、「蝶々夫人」、「魔笛」と上演を重ねてきました。今回は、ドニゼッティの代表作「ドン・パスクワーレ」を2019年に続き、上演します。ミラノ・スカラ座で初演され、多くのオペラハウスで上演されてきた定評のあるプロダクションを導入し、新国立劇場が2019年に新制作したこの舞台は、オペラの楽しさの真髄を伝える作品として、オーソドックスな舞台に繊細な表現や視覚効果で魅せる演出で大評判となりました。“高校生に本物のオペラを体験していただきたい”という願いを込めて、演出、舞台美術、衣裳など新国立劇場で上演されているものと同じプロダクションで、全幕上演いたします。大金持ちの老人ドン・パスクワーレが、甥エルネストとその恋人ノリーナ、医師マラテスタに一泡ふかされるドタバタ劇が、魅力的な音楽とともに繰り広げられます。

演目：オペラ「ドン・パスクワーレ」
（全3幕、イタリア語上演、日本語字幕付）
作曲：ガエターノ・ドニゼッティ
指揮：沼尻竜典
演出：ステファノ・ヴィツィオーリ
美術：スザンナ・ロッシ・ヨスト
衣裳：ロベルタ・グィディ・ディ・バーニョ
照明：フランコ・マッリ

ドン・パスクワーレ：久保田真澄
マラテスタ：上江隼人
エルネスト：中井亮一
ノリーナ：三宅理恵 他

合唱：新国立劇場合唱団
管弦楽：京都市交響楽団

チケット情報

2,200円（高校生および引率者〔学校団体〕）学校団体での申込を受付中
※残席がある公演に限り、高校生以下および一般への販売を行います。
[発売日未定]

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、新国立劇場
助成：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
協賛：ローム株式会社

クラシック×ジャズ
大西順子 meets 京都市交響楽団

主催 音楽

日程：12月21日（土）時間未定
会場：メインホール

小澤征爾が認めた才能、大西順子のジャズと京響クラシックが会う

京都市交響楽団と異ジャンルのアーティストのコラボレーションによって、オーケストラの新たな魅力を発見するシリーズ。世界各国で活躍しているジャズ・ピアニストの大西順子と、京都市交響楽団が夢の共演を果たします。ガーシュウィン「ラプソディ・イン・ブルー」をはじめとする名曲の数々をお楽しみいただけるプログラムです。クラシックとジャズが織りなす特別なコンサートに、ぜひご注目ください。

指揮：角田鋼亮

出演者：大西順子（ピアノ）、井上陽介（ベース）、吉良創太（ドラムス）、京都市交響楽団



大西順子 Junko Onishi

ニューヨークを中心にプロとしての活動を開始。1993年1月、デビュー・アルバム『WOW』がスイングジャーナル誌ジャズ・ディスク大賞日本ジャズ賞を受賞。1994年4月、セカンド・アルバム『クルージン』が米国ブルーノートより発売。5月、NYの名門ジャズ・クラブ“ビレッジ・バンガード”に日本人として初めて自己のグループを率いて出演。2000年3月突然の長期休養宣言。2007年、活動再開。2009年7月にアルバム『楽興の時 / Musical Moments』をリリース。2010年3月には新作『バロック』をニューヨークでレコーディング。2012年夏、突然の引退宣言。2013年9月「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」へ出演。小澤征爾氏の猛烈な誘いに負け、一夜限りの復活とし出演を決める。小澤征爾率いるサイトウ・キネン・オーケストラと大西順子トリオの共演は、大きな話題に。2015年9月「東京 JAZZ」へ出演、シーンに復帰を飾る。2017年11月、『Very Special』と『Glamorous Life』を2枚同時リリース。2018年12月、新たに3管セクステットを結成し『XII (twelve)』をリリース。2019年7月、『JUNKO ONISHI presents JATROIT Live at BLUE NOTE TOKYO』をリリース。同年と2021年に作家 村上春樹の音楽イベント「MURAKAMIJAM」で音楽監督を務める。2020年3月、3管セクステットにギターやアルトなど豪華ゲストを加えた編成、「大西順子セクステットプラス」として『Live XI』、『Unity All(Live at PitInn 完全版・3枚組)』をリリース。2021年には「大西順子セクステットプラス」から発展した大編成「JUNKO ONISHI presents THE ORCHESTRA」が始動。6月に『out of THDAWN』をリリース。2021年12月にはトリオ編成にパーカッション大儀見元が加わった『大西順子カルテット』を結成し、12月に「GrandVoyage」をリリース。



© Makoto Kamiya

角田鋼亮 Kosuke Tsunoda

東京芸術大学大学院指揮科修士課程並びにベルリン音楽大学国家演奏家資格課程修了。2002年、安宅賞受賞。2006年、第3回ドイツ全音楽大学・指揮コンクールで最高位を獲得。2008年、カラヤン生誕100周年記念の第4回ドイツ全音楽大学指揮コンクール第2位入賞。2010年、第3回マーラー指揮コンクールにおいて最終の6人に残った。これまでに、ベルリン・コンツェルトハウス管、ブランデンブルグ響、上海歌劇院管、札幌、山響、仙台フィル、群響、N響、読響、都響、東響、東京フィル、日本フィル、新日本フィル、東京シティ・フィル、神奈川フィル、名古屋フィル、セントラル愛知響、中部フィル、愛知室内オケ、アンサンブル金沢、京響、大阪フィル、日本センチュリー響、大響、兵庫 PAC、広響、九響と共演している。2015年よりセントラル愛知交響楽団の指揮者を務め、2019年より常任指揮者に就任。2016-2020年大阪フィルハーモニー交響楽団指揮者、2018-2022年仙台フィルハーモニー管弦楽団指揮者を歴任するなど、いま日本で最も期待される若手指揮者の一人として各地にて活躍の場を拓いている。2020年「令和元年度愛知県芸術文化選奨文化新人賞」「名古屋市立文化振興事業団第36回芸術創造賞」を受賞。セントラル愛知交響楽団とのCD「クラフマニフ交響曲第2番&モシュコフスキ組曲「諸国から」><エルガー：エニグマ変奏曲>をオクタヴィア・レコードよりリリースしている。2024年度よりセントラル愛知交響楽団音楽監督に就任予定。

チケット情報

全席指定

S席 8,000円、A席 6,000円 他

[7月13日（土）チケット一般発売開始]

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

協力：(株)ブルーノート・ジャパン

市民寄席

主催

演劇



会場：サウスホール



第 369 回市民寄席 口上より 撮影：佐々木卓男

1957年にスタートし、京都では恒例の落語会として長く親しまれてきた「市民寄席」。幅広い世代に笑いを届ける上方落語の生の迫力と寄席の雰囲気をご体験ください。

第 370 回 5 月 21 日 (火) 19:00 開演

【番組】

「道具屋」月亭 希遊

「餅屋問答」林家 卯三郎

「質屋芝居」桂 米左

「鹿政談」笑福亭 福笑



第 371 回：7 月 23 日 (火) 19:00 開演

第 372 回：9 月 29 日 (日) 13:30 開演

第 373 回：11 月 26 日 (火) 19:00 開演

第 374 回：2025 年 1 月 26 日 (日) 13:30 開演

チケット情報

全席指定

第 370 回、第 371 回、第 373 回：前売 1,800 円、当日 2,000 円、ユース (25 歳以下) 1,500 円

第 372 回、第 374 回：前売 2,300 円、当日 2,500 円、ユース (25 歳以下) 1,500 円

年間席札※ 8,000 円、ユース (25 歳以下) 6,000 円 ※完売

[第 370 回：チケット発売中]

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

第73回京都新能
—光源氏の夢—

共催

演劇

日程：6月1日（土）、2日（日）両日 18:00 開演
会場：平安神宮特設能舞台 ※雨天の場合はメインホール



能の普及と発展をめざして毎年開催され、今や京都の初夏の風物詩となっている京都新能。夕闇の中で篝火が焚かれ、平安神宮の朱塗りの社殿が映し出されるなか、特設の能舞台が闇夜に浮かび上がり、幻想的な雰囲気は辺りを包みます。観世・金剛・大蔵の各流派による能や狂言が楽しめるという豪華なもので、例年京都はもとより国内外からも多くの観客が来場し、幽玄の世界に酔いしれます。

6月1日（土）
観世流能 「半部」（シテ）松井美樹
金剛流能 「葵上」（シテ）金剛永謹
大蔵流狂言 「おぼんと光君」（シテ）茂山逸平
観世流能 「土蜘蛛」（前シテ）片山伸吾（後シテ）橋本忠樹

6月2日（日）
観世流能 「須磨源氏」（前シテ）浦部幸裕（後シテ）河村晴道
観世流能 「野宮」（シテ）青木道喜
大蔵流狂言 「ひめあらそい」（シテ）茂山千之丞
金剛流能 「土蜘蛛」（前シテ）廣田泰能（後シテ）豊嶋幸洋

チケット情報

前売指定席 7,000 円（席数限定）、前売自由席 4,000 円、学生前売自由席 3,000 円
前売団体割引券 3,600 円（15 名以上）、当日券 5,000 円（一般・学生共通）
※自由席は日にち指定制（両日共通券ではありません）※未就学児入場不可
[4月13日（土）チケット一般発売開始]
お問合せ：京都いつでもコール 075-661-3755（3月27日以降、午前8時～午後9時）
主催：京都市、一般社団法人京都能楽会 共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

能の世界へおこしやす
—京都新能鑑賞のための公開講座—

主催

演劇



日程：6月1日（土）、2日（日）
両日 14:00 開演
会場：メインホール



京都新能を通じて能と狂言の世界をお楽しみいただくために、出演者による公開レクチャーを今年も実施いたします。能の謡や囃子、狂言の体験を交えた解説の後に、ダイジェスト版の能も鑑賞していただけます。午後6時に開催される“京都新能”をご覧になる前に、午後2時からの無料レクチャー「能の世界へおこしやす」にどうぞお越しください。

出演：京都新能出演能楽師

- プログラム（両日）
- ・挨拶と能楽の解説
 - ・能の謡と型の体験
 - ・囃子と狂言の解説
 - ・舞囃子の解説と鑑賞



チケット情報

全席自由 無料、申込不要 ※未就学児入場不可
お問合せ：京都いつでもコール 075-661-3755（3月27日以降、午前8時～午後9時）、ロームシアター京都 075-771-6051
主催：京都市、一般社団法人京都能楽会、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

能楽チャリティ公演
～祈りよとどけ、京都より～

共催

演劇



日程：8月22日（木）
第1部 10:30 開演 / 第2部 18:30 開演
会場：サウスホール



「羽衣」



「融」

京都在籍の能楽師有志による能楽チャリティ公演を開催します。

【第1部】

半能「屋島」(シテ) 橋本忠樹
狂言「口真似」(シテ) 茂山 茂
能「羽衣 和合之舞」(シテ) 杉浦豊彦

【第2部】

能「花月」(シテ) 河村浩太郎
狂言「鼻」(シテ) 茂山忠三郎
半能「融 酌之舞」(シテ) 片山九郎右衛門

チケット情報

全席自由 1,500円 [6月1日(土) チケット一般発売開始]

主催：京都在籍能楽師有志

共催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、国際交流基金京都支部

対談企画
～芸能の在る処～

主催

演劇



日程：全3回
会場：ノースホール

木ノ下歌舞伎主宰で、古典芸能／伝統芸能に関する執筆、講座など多岐にわたる活動が注目されている木ノ下裕一による対談企画。伝統芸能の担い手や、異分野の方をお招きし、伝統芸能の未来について語り合います。



木ノ下裕一 Yuichi Kinoshita

木ノ下歌舞伎主宰。1985年和歌山市生まれ。京都造形芸術大学（現・京都芸術大学）卒業。博士号取得。在学中の2006年に古典目上演の補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。代表作に『娘道成寺』『黒塚』『東海道四谷怪談一通し上演』『義経千本桜一渡海屋・大物浦一』『糸井版 摂州合邦辻』など。2016年に上演した『勸進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。第38回（令和元年度）京都府文化賞奨励賞受賞。渋谷・コクーン歌舞伎『切られの与三』（2018）の補綴や神田伯山の講談の台本執筆を務めるなど、外部での古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動。NHK ラジオ第2『おしゃべりな古典教室』にレギュラー出演中。令和6年4月、まつもと市民芸術館（長野県松本市）「芸術監督団」の団長として、演劇部門の芸術監督に就任。

チケット情報

全席自由 1,000円（要事前申込）[申込開始日未定]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

I ノエ・スーリエ 『The Waves』

主催

舞踊

日程：4月5日(金)19:00 開演
会場：サウスホール

© José Caldeira

ヨーロッパで今、注目を集めるフランスの若手振付家ノエ・スーリエ
絶え間なく移りゆく わたしたちの意識の世界を音と身体で描く

2020年よりアンジェ国立現代舞踊センターのディレクターを務めるなど、ヨーロッパのダンス界で注目を集めるノエ・スーリエ。『The Waves』はわたしたちの身体の記憶や知覚、その複雑に絡み合ったディテールを呼び覚まし、身体の表現に変換しようという試みです。イギリスの作家ヴァージニア・ウルフが1931年に手掛けた長編小説『The Waves (波)』の一節が淡々と語られるなか、ウルフの小説の中で織りなされる男女6人のモノローグのように、6人のパフォーマーが多様なムーブメントを緻密に重ねながら、響き合います。

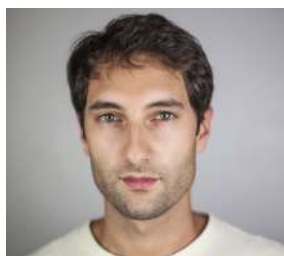
作品を共に導くのは、ローザス作品に数多く参加してきた、現代音楽アンサンブル・イクトゥス。生演奏による打楽器の変容しつづけるリズムがパフォーマーの緊張を高めながらムーブメントと絶えず呼応し、観る者の記憶を呼び覚まします。

振付：ノエ・スーリエ

パーカッション：トム・ドゥ・コック、グリット・ヌレンス(イクトゥス)

出演：ステファニー・アムラオ、ジュリー・シャルボニエ、アドリアーノ・コレッタ、船矢祐美子、ナンガリンヌ・ゴミス、ナン・ピアソン

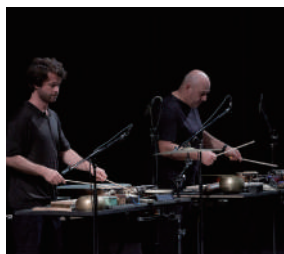
音楽：ノエ・スーリエ、トム・ドゥ・コック、グリット・ヌレンス



© Wilfried Thierry-Cndc

ノエ・スーリエ Noé Soulier [振付]

1987年パリ生まれ。パリ国立高等音楽・舞踊学校やベルギーのP.A.R.T.S.でダンスを学び、ソルボンヌ大学で哲学の修士号を取得。2010年パリ市立劇場とミュゼ・ドゥ・ラ・ダンスが主催するダンスコンクール「ダンス・エラルジー」で最優秀賞を受賞。2020年よりアンジェ国立現代舞踊センター(Cndc-Angers)のディレクターを務める。ラン国立バレエ団、バレエ・ロレーヌ、L.A. Dance Project、リヨン・オペラ座バレエ団、ネザーランド・ダンス・シアター2 (NDT2)の委嘱で振付を提供するほか、劇場や美術館、屋外などにおいて身振りや身体経験との関係、ダンスへの様々なアプローチを探求する、今注目のアーティスト。



© José Caldeira

イクトゥス Ictus [パーカッション・音楽]

ベルギーを代表する現代音楽アンサンブル。1994年創設。同年よりP.A.R.T.S.ダンススクールやアンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル主宰ダンスカンパニー・ローザスと拠点を共有し、15作品を共同で創作。スティーヴ・ライヒなど数多の現代作曲家の作品演奏を行う。また、ヴィム・ヴァンデケイピュス、モー・ル・プラデック、エレノア・パウアー、池田扶美代などの振付家とも協働実績をもつ。ブリュッセルのカーイテアターや、芸術センター・ボザールの他、ヨーロッパ各地のコンサート・フェスティバル「Liquid Room」にも出演。広義での実験音楽に力を注いでいる。

チケット情報

全席指定

一般 4,000 円、ユース (25 歳以下) 2,000 円、18 歳以下 1,000 円 [チケット発売中]

主催：ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都府

共同招聘：彩の国さいたま芸術劇場 (公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団)

助成：ダンス リフレクションズ by ヴァン クリーフ & アーベル、アンスティチュ・フランセ パリ本部

後援：在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ

<他地域での公演>

埼玉公演 3月29日(金)、30日(土) 彩の国さいたま芸術劇場

<関連企画>

映像作品上映会+トーク：振付家ノエ・スーリエの映像的アプローチ

上映作品：ノエ・スーリエ監督作品『Fragments』（2022年）

日時：4月3日（水）19:00 開演

会場：関西日仏学館（京都）

入場無料、要予約

屋外パフォーマンス『Passages』

日時：4月6日（土）14:00 開演

会場：ロームシアター京都 ローム・スクエア

入場無料、予約不要

『Passages』は、身体の動きと空間の関係を探求するプロジェクト。そこに実在しないはずの空想の物体によって決定されたパフォーマンスの動きによって、かれらのいる場所の様々な位相が共鳴しあいます。ステージも、舞台技術も、音響機材も必要ない、場所の特性に合わせて構成された振付で、6人のダンサーが空間への新たな視点を提示します。桜満開の季節、地域住民や観光客でにぎわうローム・スクエアにて、身体の動きが日常の空間のなかの非日常を生みだします。



© Bruno Simao

RYUICHI SAKAMOTO + SHIRO TAKATANI
『TIME』日程：4月27日(土) 14:00 開演
28日(日) 13:00 開演
会場：メインホール

共催

音楽

舞踊

美術・映像



Photo : Sanne Peper

坂本龍一、高谷史郎（ダムタイプ）によるシアターピースの最新作『TIME』
出演に田中泯、宮田まゆみ（笙）、石原淋を迎え、ついに日本初上演

2021年、世界最大級の舞台芸術の祭典「ホランド・フェスティバル」（オランダ）の初演にて、満場のスタンディング・オベーションで迎えられた『TIME』。生前の坂本龍一が本作のために全曲を書き下ろした音楽と、演者の動き、光と映像、水が共鳴します。インスタレーションやパフォーマンス、ヴィジュアル・アートが舞台上で融合することで、ふたつの夢幻が交錯するシアターピースの最新作。田中泯、宮田まゆみ、石原淋を迎えてさらなる進化を遂げ、満を持しての日本初上演。

音楽＋コンセプト：坂本龍一

ヴィジュアル・デザイン＋コンセプト：高谷史郎

出演：田中泯（ダンサー）、宮田まゆみ（笙奏者）、石原淋（ダンサー）

能管：藤田流十一世宗家 藤田六郎兵衛（録音：2018年6月）



Photo : Neo Sora © 2020 Kab Inc.

坂本龍一 Ryuichi Sakamoto

1952年、東京生まれ。東京藝術大学大学院修士課程修了。1978年『千のナイフ』でソロデビュー。同年、YMOの結成に参加。1983年に散開後は『音楽凶鑑』『BEAUTY』『async』『12』などを発表、革新的なサウンドを追求し続けた姿勢は世界的に高い評価を得た。映画音楽では『戦場のメリークリスマス』で英国アカデミー賞作曲賞、『ラストエンペラー』でアカデミー賞作曲賞、ゴールデングローブ賞最優秀作曲賞、グラミー賞映画・テレビ音楽賞など多数、『The Sheltering Sky』では2度目のゴールデングローブ賞最優秀作曲賞を受賞した。『LIFE』、『TIME』などの舞台作品、韓国や中国での大規模インスタレーション展など、アート界への越境も積極的に行なった。環境や平和問題への言及も多く、森林保全団体「more trees」を創設。また「東北ユースオーケストラ」を設立して被災地の子供たちの音楽活動を支援した。2023年3月28日、71歳で死去。



高谷史郎 Shiro Takatani

1963年生まれ。京都市立芸術大学環境デザイン専攻卒業。84年からアーティストグループ「ダムタイプ」の活動に参加。さまざまなメディアを用いたパフォーマンスやインスタレーション作品の制作に携わり、世界各地の劇場や美術館、アートセンターで公演／展示を行う。98年からダムタイプの活動と並行して個人の制作活動を開始。パフォーマンス『明るい部屋』（初演：08年 ドイツ世界演劇祭）、『CHROMA』（初演：12年 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール）、『ST/LL』（音楽・坂本龍一ほか／初演：15年 フランス ル・ヴォルカン国立舞台）を制作。2022年、ダムタイプは坂本龍一をメンバーに迎え、ヴェネチア・ビエンナーレ日本館で新作を発表。2023年にはアーティゾン美術館でヴェネチア・ビエンナーレ帰国展を開催。2024年2月、個人としては新作パフォーマンス『Tangent』（音楽・坂本龍一／アルバム『12』より）をロームシアター京都で初演。

チケット情報

全席指定

S席 15,000円、A席 12,500円、3階席 9,500円、U-18 3,500円

[チケット発売中]

主催：ABCテレビ、サンライズプロモーション大阪、(株)パルコ、朝日新聞社、集英社-T JAPAN

共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

特別協賛：シャボン玉石けん株式会社

<他地域での公演>

東京公演 3月28日(木)～4月14日(日) 新国立劇場 中劇場

KAAT 神奈川芸術劇場プロデュース 『ライカムで待っとく』

日程：6月7日（金）19:00 開演
8日（土）14:00 開演
会場：サウスホール

主催

演劇



2022年度初演より 撮影：引地信彦

誰も読もうとしなかった、読まれなかった沖縄の物語は、沖縄の人々から我々が鋭く問われている、“今を生きる私たち”の物語。

沖縄在住の若手劇作家・兼島拓也が書き下ろし、沖縄に出自を持つ田中麻衣子が演出を手掛け、第30回読売演劇大賞優秀作品賞を受賞するなど、大きな反響を呼んだ本作。1964年の米兵殺傷事件を起点に、現代を生きる東京の若者たち、基地問題の専門家、同じ基地の町・横須賀に暮らす人たちなどにもヒアリングを実施しながら創作されました。

沖縄の過去と現在と未来が交錯する軽快なミステリータッチの物語の中で、知らぬ間に沖縄の複雑性やこの国の在り方を直視させられる、強度をもった舞台にご期待ください。

<あらすじ>

雑誌記者の浅野は、60年前の沖縄で起きた米兵殺傷事件について調べることになったのだが、実はその容疑者が自分の妻の祖父・佐久本だったことを知る。調査を進めながら記事を書くうち、浅野は次第に沖縄の過去と現在が渾然となった不可解な状況下に誘われ、「沖縄の物語」が育んできた「決まり」の中に自分自身も飲み込まれていく……。

<「ライカム」とは>

かつて沖縄本島中部の北中城村比嘉地区に置かれていた琉球米軍司令部（Ryukyu Command headquarters）の略。現在「ライカム」は地名として残っている。司令部があった近辺の米軍関係者専用のゴルフ場の跡地には、2015年「イオンモール沖縄ライカム」がオープン。地元民のみならず県外からの観光客も多く訪れる場所になっている。

作：兼島拓也 演出：田中麻衣子

出演：中山祐一朗、前田一世、佐久本宝、蔵下穂波、小川ゲン、神田青、魏涼子、あめくみちこ



兼島拓也 Takuya Kaneshima

1989年、沖縄県沖縄市出身。2013年に演劇グループ「チョコ泥棒」を結成し、脚本と演出を担当。沖縄の若者言葉を用いた会話劇を得意とし、コメディやミステリを軸としたオリジナル脚本の上演を行う。また、琉球舞踊家との演劇ユニット「玉どろぼう」としても活動する。脚本を担当したオーディオドラマ『ふしぎの国のハイサイ食堂』（NHK・2021年）で第31回オーディオドラマ奨励賞入選。『Folklore（フォークロア）』（2018年）で第14回おきなわ文学賞シナリオ・戯曲部門一席を受賞。『ライカムで待っとく』が第30回読売演劇大賞優秀作品賞を受賞、第26回鶴屋南北戯曲賞および第67回岸田國士戯曲賞で最終候補となる。



田中麻衣子 Maiko Tanaka

兵庫県宝塚市生まれ。日本大学芸術学部演劇学科卒業。主な演出作品に『かけがえのない日々ー冷蔵庫のうえの人生』『君は即ち春を吸ひこんだのだ』『ローズのジレンマ』『Shakespeare's R&J』『Ordinary Days』『A New Musical ゆびさきと恋々』『怪物/The Monster』『どうぶつ会議』『血の婚礼』『胎内』『罪と罰』他。2014年文化庁新進芸術家海外派遣制度でロンドンにて研修。Théâtre MUIBO 主宰。

チケット情報

全席指定

一般 4,000円、ユース（25歳以下）2,000円、18歳以下 1,000円

[チケット発売中]

企画制作：KAAT 神奈川芸術劇場

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

助成：一般財団法人地域創造

<他地域での公演>

神奈川公演 5月24日（金）～6月2日（日）KAAT 神奈川芸術劇場

福岡公演 6月15日（土）久留米シティプラザ

沖縄公演 6月22日（土）、23日（日）那覇文化芸術劇場なはーと

COCOON PRODUCTION 2024

『ふくすけ2024 - 歌舞伎町黙示録 -』

日程：8月9日（金）～15日（木）

時間未定

会場：メインホール

共催

演劇



毒と哀切にまみれた松尾スズキ伝説の代表作が初の京都上演！

薬剤被害によって障がいを持った少年“フクスケ”をめぐる登場人物たちが底なき悪意と情愛に突き動かされながら必死にもがき生きる姿を、毒々しくも力強く描いた松尾スズキ伝説の作品『ふくすけ』。再演を重ね、世紀を超えてなお人々を熱狂と興奮の渦に巻き込んできました。12年ぶり4度目の上演となる今公演では、サブタイトルを“歌舞伎町黙示録”と題し、台本をリニューアル。中毒性を倍増させる魅力的なキャスティングと、2024年版として配役を新たに、パワーアップして上演します。

『ふくすけ』に3度目の出演となる阿部サダヲをはじめ、黒木華、荒川良々、岸井ゆきの、皆川猿時、松本穂香、秋山菜津子に加え、松尾スズキ自身も久々に出演。狂気の松尾ワールドを余すところなく魅せる総勢28名の豪華キャストが集結しました。初演から33年経っても色褪せず、上演の度にその時代に突き刺さる普遍的な物語が、今を生きる観客を狂騒の世界に引き込みます。哀しくも美しい、怒涛のダークエンタテインメントにご期待ください。

作・演出：松尾スズキ

出演：阿部サダヲ、黒木華、荒川良々、岸井ゆきの、皆川猿時、松本穂香、伊勢志摩、猫背椿、穴戸美和公、内田慈、町田水城、河井克夫、菅原永二、オクイシュージ、松尾スズキ、秋山菜津子

加賀谷一肇、石井千賀、石田彩夏、江原パジャマ、大野明香音、久具巨林、橘花梨、友野翔太、永石千尋、松本祐華、米良まさひろ、山森大輔

ミュージシャン：山中信人（三味線）

音楽：国広和毅 舞台装置：池田ともゆき 照明：大島祐夫 音響：藤森直樹 衣裳：西原梨恵 ヘアメイク：板垣実和

映像：O-beron inc. 振付：振付稼業 air:man 演出助手：大堀光威 舞台監督：二瓶剛雄、広瀬泰久

制作助手：島田琴未 制作：石井おり絵、川越ひかる、藤崎晃雅

チーフ・プロデューサー：森田智子 エグゼクティブ・プロデューサー：加藤真規

企画・製作：Bunkamura

松尾スズキ Suzuki Matsuo

1988年に大人計画を旗揚げ、主宰として作・演出・出演を務めるほか、小説家・エッセイスト・脚本家・映画監督・俳優など多彩に活躍中。『ファンキー！～宇宙は見える所までしかない～』で第41回岸田國士戯曲賞を、映画『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』で第31回日本アカデミー賞最優秀脚本賞を、『命、ギガ長ス』で第71回読売文学賞戯曲・シナリオ賞を受賞。小説『クワイエットルームにようこそ』、『老人賭博』、『もう「はい」としか言えない』は芥川賞候補となった。主演したテレビドラマ『ちかえもん』は第71回文化庁芸術祭賞ほか受賞。20年よりBunkamuraシアターコクーン芸術監督、23年より京都芸術大学舞台芸術研究センター教授に就任。23年12月には、自身初の個展『松尾スズキの芸術ばばい』を開催。最近の公演としては、『ニンゲン御破算』（18・作・演出・出演）、『世界は一人』（19・出演）、『命、ギガ長ス』（19・作・演出）、『キレイ - 神様と待ち合わせした女 -』（19・作・演出）、『フリムンシスターズ』（20・作・演出）、『シブヤデアイマショウ』（21・総合演出・構成台本・出演）、『パ・ラパパン』（21・演出）、『命、ギガ長スW（ダブル）』（『ドライブイン カリフォルニア』『ツダマンの世界』（22・作・演出）、『シブヤデマタアイマショウ』（23・総合演出・構成台本・出演）、『命、ギガ長ス zzz』（24・作・演出）などがある。

チケット情報

全席指定

席種・料金・発売日未定

主催：サンライズプロモーション大阪

共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

企画・製作：Bunkamura

<他地域での公演>

東京公演 7月9日（火）～8月4日（日） THEATER MILANO-Za

福岡公演 8月23日（金）～8月26日（月） キャナルシティ劇場

加藤訓子プロデュース
「スティーヴ・ライヒプロジェクト
kuniko plays reich II / DRUMMING LIVE」

 日程：8月25日（日）17:00 開演
 会場：サウスホール

共催 音楽



© Michiyuki Ohba

© Jeffrey Herman

ライヒから絶賛を受ける日本屈指のパーカッショニスト加藤訓子が率いる
「スティーヴ・ライヒプロジェクト」

加藤訓子プロデュース「スティーヴ・ライヒプロジェクト」がロームシアター京都にやってきます。「スティーヴ・ライヒプロジェクト」とは、日本屈指のパーカッショニストでライヒ演奏のトップ・ランナーでもある加藤が、今をリードする若手プレイヤーを率いて巨匠のマスターピースを披露するプロジェクト。

ライヒ往年の名曲から12人の奏者による「ドラミング」ライブ、ピアノフェイズの世界初ビブラフォン版を収録し、世界へ発表した話題作「kuniko plays reich II」の二本立てです。圧倒的な完成度の録音とライブソロ+テープによるパフォーマンス、世界ツアーで多くのファンを魅了し続けているクニコプレイズライヒにご期待ください。

出演者：KUNIKO KATO & MUSICIANS

加藤訓子 Kuniko Kato

パーカッショニスト。英国スコットランドの高音質で知られる世界的レーベル、Linn Records(リン・レコーズ)からCDを出す唯一の日本人アーティスト。2017年6月に世界同時発売された、同レーベル第4作となる最新アルバム『BACH』はマリンバソロによるバッハ演奏を集めた2枚組で、同レーベルの年間ベストアルバムに輝いた。また日本国内では第10回CDショップ大賞2018“クラシック賞”を受賞。2017年から2018年にかけては同アルバムリリース記念公演として豪州、北欧、日本国内のツアーを敢行、好評を博した。2018年10月には第5作アルバムとして『スティーヴ・ライヒ：ドラミング』を発売。同アルバム発売を記念してサントリーホールにてコンサートを開催、同公演は平成30年度（第73回）文化庁芸術祭音楽部門で優秀賞を受賞。

これまでに発表したアルバムは全て高い実績を誇り、2011年ライヒの代表作「カウンターポイント」を世界で初めて打楽器へ編曲したソロアルバム『kuniko plays reich』は同年のベストアルバムに選出された。同アルバムのライブ版公演でサントリー芸術財団より第12回佐治敬三賞受賞。2013年に発表した第2作目のアルバム『CANTUS』ではエストニアの巨匠アルヴォ・ペルトの代表作4曲をフィーチャー、英国オフィシャルクラシックチャートでトップ10入りを果たし世界の有力紙からも高い評価を受け、ミュージック・ペンクラブ・ジャパンより第26回ミュージック・ペンクラブ音楽賞オーディオ部門の最優秀録音作品に選ばれた。2015年には20世紀の偉大な作曲家ヤニス・クセナキスの大作「プレイアデス」とソロ打楽器作品「ルボン」をフィーチャーしたアルバム、『IX』を発表、レコード・アカデミー賞現代曲部門および特別部門（録音）にダブルノミネートされた。

チケット情報
全席指定

一般 5,000 円、ユース（25 歳以下）3,000 円、ミュージシャン割 3,000 円（主催者へお問合せください）

[4月15日（月）チケット一般発売開始]

主催：特定非営利活動法人芸術文化ワークス

共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

<他施設での公演>

埼玉公演 6月28日（金）彩の国さいたま芸術劇場

名古屋公演 9月13日（金）、14日（土）愛知県芸術劇場

ロームシアター京都×京都芸術センター
U35 創造支援プログラム “KIPPU”

2024 年度参加アーティスト

① プロトシアトル

② Dr. Holiday Laboratory

共催

演劇



日程：① 9月13日（金）19:30 開演

14日（土）13:00/18:00 開演

15日（日）11:00/15:00 開演

② 12月13日（金）～15日（日）全4回公演

会場：ノースホール

若手アーティストの発掘と育成を目的に、ロームシアター京都と京都芸術センターが協働して行う創作支援プログラム「KIPPU」。7年目となる2024年度は、プロトシアトル（大阪）、Dr. Holiday Laboratory（東京）の2組を採択しました。

[過去の参加団体・アーティスト]

2018年度：ブルーエゴナク（北九州）、安住の地（京都）、akakilike（京都）

2021年度：福井裕孝（京都）、敷地理（東京）

2019年度：お寿司（京都）、オル太（東京）

2022年度：空間現代（京都）、努力クラブ（京都）

2020年度：中川裕貴（京都）、シラカン（神奈川）、スペースノット

2023年度：劇団不労社（京都/大阪）、PANCETTA（東京）

ブランク（東京）

① プロトシアトル第13回本公演 『ザ・パレスサイド』

演劇



プロトシアトル第12回本公演『悲しき玩具 Bang Bang』(2023年)

大阪を拠点に活動する「プロトシアトル」は、リアルな会話劇を得意とする劇団です。約4年ぶりとなる座付作家による長編新作を発表します。本公演としては初となる京都での創作/上演です。街、建物、人など、時代を経ることで、消えゆくもの、残り続けるもの、新たに生まれるもの、発展するものと、それらにまつわる人々の情感を等身大で描く群像劇です。

<あらすじ>

男は生粋のホテルマンだった。生後二日にしてきれいなお辞儀を覚え、嫌味のない笑顔はお手の物、稼いだチップで小中高の学費を払った…という噂だが本当かどうかわからない。街には大きなホテルがあった。宮殿と呼ばれたそのホテルは街のシンボルであった。男はそこで働くことが目標だった。そのために生まれてきたようなものだった。

いよいよそのホテルに勤めようとしたとき、新たな景観法が施行されホテルは以前よりもこじんまりとしてしまった。瞬間、未来を見た。このホテルはやがて消えて行くのだと。自分よりも早く忘れられていくのだと。これは、消えて行くものと、歩いて行くものとそれに纏わるものの群像劇。

作・演出：F.O. ペレイラ宏一朗

出演：小島翔太、豊島祐貴、ヤマナカサヨコ 他

プロトシアトル prototheatre

「protothéâtre = 試作劇場（あるいは試作演劇）」。2013年、近畿大学舞台芸術専攻23期生一部のメンバーで旗揚げ。作品性を固定しているわけではないが、これまでは主宰F.O. ペレイラ宏一朗の戯曲あるいは演出作品を中心に、人生において普遍的であり、誰もが共感できる出来事を扱ってきた。静かでリアルな会話を主とし、観客の過去の思い出や経験を呼び起こす。借景に似た作り方をしている。「KAVC FLAG COMPANY2019-2020」選出。「令和4年度次世代応援企画 break a leg」選出。『ノクターン』（作・演出：F.O. ペレイラ宏一朗）が「ウイングカップ5」最優秀賞受賞。『どこよりも遠く、どこでもあった場所。あるいは、どこよりも近く、何も無い。』（作：F.O. ペレイラ宏一朗）が「第26回OMS戯曲賞」最終候補にノミネート。
<http://www.prototheatre.com>

protothéâtre

チケット情報

全席自由

一般前売 3,000円、一般当日 3,500円、

ユース（25歳以下）前売 2,500円、ユース（25歳以下）当日 2,800円、18歳以下 1,000円（前売のみ）、リピート 1,500円

[6月29日（土）チケット一般発売開始]

主催：プロトシアトル

共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都市

② Dr. Holiday Laboratory 『想像の犠牲』 演劇



『脱獄計画（仮）』（2023年）©マコトオカザキ

東京を拠点に、演劇作品を中心として川柳や小説の制作を行う団体「Dr. Holiday Laboratory」による演劇公演。前作の『脱獄計画（仮）』は、饒舌かつ重層的な文体の戯曲、不気味な笑いと暴力が渦を巻く上演が話題を呼びました。今回はタルコフスキーの映画『サクリファイス』から着想を得て、世界の救済と、救済のために役を演じることで犠牲となるものを問う新作を発表します。

<あらすじ>

演劇をやめて久しい土井は、かつて出演した演劇作品の「演出家」の弟を名乗る人物から、演劇の上演を依頼される。そこで土井が受け取ったのは、アンドレイ・タルコフスキーのある映画をもとに書かれた、演劇と救済にまつわる、一本の奇妙な戯曲だった――。

《私が、君を見つめている理由が、わかるか？（…）やっとな戯曲を書き上げて、君に渡せたよるこびだけじゃない。今、私は、君が演出するこの戯曲の上演が目には浮かぶという嘘になるが、目に浮かぶ時に感じるそれとおなじと言っていい感情が、ゆっくりと立ち上ってくるのを、味わっているよ。》

作・演出：山本ジャスティン伊等

出演：ロビン・マナバット、石川朝日、油井文寧 他



Dr. Holiday Laboratory（ドクターホリデーラボラトリー）

山本伊等、小野寺里穂、ロビン・マナバットをメンバーとして、2021年に東京で結成。小説や詩、川柳等を使用しながら、ときに文法の破綻も孕む多層的な戯曲と非日常的で不気味な笑いを含む演出を特徴とした舞台は、小説家の保坂和志氏や現代美術作家のミヤギフトシ氏をはじめ、他ジャンルの作家からも評価を得ている。近作に『うららかとルポルタージュ』『シャッセナンビ』『脱獄計画（仮）』等。<https://drholidaylab.com/>

チケット情報

全席自由

料金未定

[9月21日（土）チケット一般発売開始]

主催：Dr. Holiday Laboratory

共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都市

ロームシアター京都 × 京都芸術センター U35 創造支援プログラム “KIPPU”

若手アーティストの発掘と育成を目的に、ロームシアター京都と京都芸術センターが協働して行う創造支援プログラム“KIPPU”。本プログラムでは、公募により参加団体・アーティストを選出し、創作に専念できるスタジオ（京都芸術センター制作室）と、舞台設備の備わった劇場（ロームシアター京都ノースホール）を提供し、舞台機構の活用や、作品サイズや活動フィールドの拡大等に挑戦するアーティストを支援します。新たな才能が京都から国内外へ羽ばたくことを期待しています。

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都市

KYOTO EXPERIMENT

京都国際舞台芸術祭 2024

日程：10月5日（土）～10月27日（日）
会場：ロームシアター京都、京都芸術センター、
京都芸術劇場 春秋座、THEATRE E9 KYOTO
他

主催 演劇 舞踊 美術・映像



京都発、実験的な舞台芸術を紹介するフェスティバル

KYOTO EXPERIMENT は、2010年より開催している京都発の舞台芸術祭。「EXPERIMENT（エクスペリメント）＝実験」的な舞台芸術を創造・発信し、芸術表現と社会を、新しい形の対話でつなぐことを目指しています。世界各地の実験的な舞台芸術を楽しむプログラム「Shows」、フェスティバルが根ざす関西地域をアーティストの視点で探求するリサーチプログラム「Kansai Studies」、舞台芸術だけにとどまらない、多様な専門家によるトークやワークショップが体験できる「Super Knowledge for the Future[SKF]」の3つのプログラムで展開します。

今回のフェスティバルは、記念すべき15回目を迎えます。国内外の先鋭的なアーティストを迎え、いま注目すべき舞台作品を紹介すると同時に、先駆的な芸術表現の創造の場として、舞台芸術の可能性に挑戦する新作やリ・クリエーション作品を多数上演します。また、ハイジュエリーブランド、ヴァン クリーフ&アーペルによる、創造・継承・教育の3つの価値でダンスに取り組むプロジェクト「ダンス リフレクションズ by ヴァン クリーフ&アーペル」とのパートナーシップを継続し、「ダンス リフレクションズ by ヴァン クリーフ&アーペル フェスティバル」と協働してダンスプログラムを展開します。

チケット情報

席種・料金・発売日未定

◎車椅子でお越しのお客様は、各料金の500円引き（介助者1名無料）となります。

主催：京都国際舞台芸術祭実行委員会

【京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、
京都芸術大学 舞台芸術研究センター、THEATRE E9 KYOTO（一般社団法人アーツシード京都）】

ダンスプログラム共同主催 | ダンス リフレクションズ by ヴァン クリーフ&アーペル

I ラシッド・ウランダン

コール エクストレーム

『Corps extrêmes 一身体の極限で』

主催

舞踊

日程:11月2日(土) 19:00 開演
3日(日・祝) 15:00 開演
会場:サウスホール

© Pascale Cholette

現代サーカスとコンテンポラリーダンスが融合！
アスリートとアーティストによるアンサンブル

2022年に上演したカンパニー XY with ラシッド・ウランダン『Möbius /メビウス』でも好評を得たフランスの振付家ラシッド・ウランダンがロームシアター京都に再登場！

綱渡りをはじめ、空中飛行や無重力状態を想起させる超絶技巧が次々繰り出され、ロッククライミングに使われる巨大な白壁をパフォーマーが駆けあがる――。本作は、そんな日常生活とはかけ離れた、まさに極限状態の身体が放つ魅力を探求した作品です。スポーツと芸術の狭間で、舞台上を軽やかに駆け回るアクロバット・アーティストとアスリートが、観る者をドキュメンタリーと夢が交差する世界に誘います。

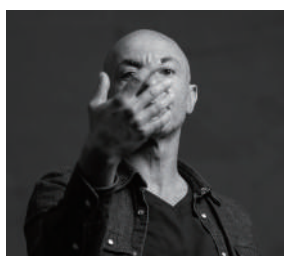
コンセプト:ラシッド・ウランダン

映像制作:ジャン=カミーユ・ゴイマール

照明:ステファン・グライヨ

音楽:ジャン=パティスト・ジュリアン

衣裳:カミーユ・パナン



© Julien Benhamou

ラシッド・ウランダン Rachid Ouramdane

1992年にアンジェ国立振付センターを卒業後、振付家・パフォーマーとしてフランス国内外で活動を開始。2005年からアヌシーのボンリュウ国立舞台、2010年からパリ市立劇場のアソシエイト・アーティストを務めた後、2016年1月より、サーカス・アーティストであるヨアン・ブルジョワとグルノーブル国立振付センター(CCN2)の共同ディレクターを務めた。2021年4月、シャイヨー国立劇場のディレクターに就任。日本においては2012年に「万国博覧会(ワールド・フェア)」、2018年に「TORDRE」、2022年にカンパニー XY with ラシッド・ウランダン『Möbius /メビウス』が上演されている。

チケット情報

全席指定

一般(1階席) 6,000円、一般(2階席) 5,000円、ユース(25歳以下) 3,000円、18歳以下 1,000円

※マルコ・ダ・シウヴァ・フェレイラ公演とのセット券あり。

[7月20日(土) チケット一般発売開始]

主催:ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市、ダンス リフレクションズ by ヴァン クリーフ & アーベル
共同招聘:彩の国さいたま芸術劇場(公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団)

<他地域での公演>

埼玉公演 10月26日(土)、27日(日) 彩の国さいたま芸術劇場

マルコ・ダ・シウヴァ・フェレイラ
カルカサ
『Carcaça』

主催

舞踊



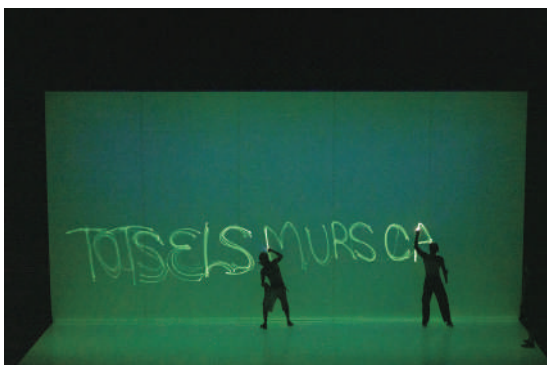
日程：11月15日（金）19:00 開演

16日（土）15:00 開演

会場：サウスホール



© José Caldeira



© velislavvelislav - One Dance Week

日本初上演！

多様性豊かなダンサーと音楽家が踊る熱いひととき

ポルトガルの若手振付家マルコ・ダ・シウヴァ・フェレイラを日本初紹介。タイトルの「Carcaça」（ポルトガル語で「残骸」の意味）とは裏腹に、舞台上では10人のダンサーと2人の音楽家による躍動感満点のエネルギッシュなダンスが繰り広げられます。民族舞踊と、LGBTQIA+ やヨーロッパ旧植民地など様々なコミュニティにおける現代的なダンススタイルが複雑に組み合わせられた本作は、常に現代性を取り入れることで、民族舞踊の概念を再定義し、更新していく取り組みです。

振付：マルコ・ダ・シウヴァ・フェレイラ



© José Caldeira

マルコ・ダ・シウヴァ・フェレイラ Marco da Silva Ferreira

1986年生まれ。ポルトガル出身の振付家。アフロ系民族の影響を受けた都会的なダンススタイルを独学で学び、ホフェッシュ・シェクターなどの国際的な振付家のもとでダンサーとして活躍した後、2013年より振付家として活動を開始。代表作に、2018年のリヨンダンスビエンナーレで上演された『Brother』（2016年）、2019年にポルト市立劇場で創作され、リスボン、ブリュッセル、フランスの各都市で上演された『Bisonte』、映画監督ホルヘ・ジャコメと共同創作した『SIRI』（2021年）等がある。2019年から2021年にかけてカーン国立振付センター（フランス・カーン）アソシエイト・アーティストを務め、2023年より、メゾン・ドゥ・ラ・ダンス（フランス・リヨン）アソシエイト・アーティスト。ヨーロッパの同世代で最も独創的な振付家のひとりとして称されている。

チケット情報

全席指定

一般：4,000円、ユース（25歳以下）2,000円、18歳以下1,000円

※ラシッド・ウランダン公演とのセット券あり。

[7月20日（土）チケット一般発売開始]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市、ダンス リフレクションズ by ヴァン クリーフ & アーベル
共同招聘：高知県立美術館

<他地域での公演>

高知公演 11月20日（水）高知県立美術館

ドレスデン・フランクフルト・ダンスカンパニー
ヤニス・マンダフニス & マノン・パラン ソロダンス
スカルボ
『SCARBO』

日程：12月21日(土) 14:00 開演
22日(日) 14:00 開演
会場：ノースホール

主催

舞踊



photo: Jean-Baptiste Bucau

—SCARBO の核心は親密さの共有である—

自分自身をあらゆる状態で見せることは、それが感情的なものであれ、肉体的なものであれ、めったにない自由である

ドレスデン・フランクフルト・ダンスカンパニーの芸術監督に就任したギリシャ出身の振付家ヤニス・マンダフニス振付によるマノン・パランのソロダンス公演。ヤニス・マンダフニスは、京都国際舞台芸術祭 KYOTO EXPERIMENT 2011 において、ヤニス・マンダフニス/ファブリス・マズリア『P.A.D.』を京都芸術センターで上演し、好評を博しました。モーリス・ラヴェル等の音楽と感情的なダンスが織りなす話題のコンテンポラリーダンス公演が待望の初来日。

コンセプト・振付：ヤニス・マンダフニス

振付コラボレーション：マノン・パラン

出演：マノン・パラン

照明：デヴィッド・クレトニック



photo: Dominik Mentzos

ヤニス・マンダフニス Ioannis Mandafounis

1981年アテネ（ギリシャ）生まれ。アテネ国立学校およびパリ国立高等音楽・舞踊学校でダンスを学ぶ。2005年にはフォーサイス・カンパニーのメンバーとなり、現在でも定期的にゲスト出演している。2023/24シーズンより、ドレスデン・フランクフルト・ダンスカンパニーの芸術監督に就任。

チケット情報

全席自由

一般 3,800 円、ユース（25 歳以下）2,000 円、18 歳以下 1,000 円

[8月17日(土) チケット一般発売開始]

< 関連企画 >

ドレスデン・フランクフルト・ダンスカンパニーによる集中ダンスワークショップ

講師：ヤニス・マンダフニス

日程：12月14日(土)～18日(水)

場所：ロームシアター京都 ノースホール 他

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

I トリコ・A
『穴』

共催

演劇



日程：2025年3月28日（金）～30日（日）

時間・公演回数未定

会場：ノースホール



トリコ・A リーディング公演 2022 『ふち』より『穴』 撮影：松本成弘

自覚するのが難しいマジョリティとマイノリティの関係性を演劇で可視化する注目作

マイノリティとマジョリティのいびつな構造の可視化を試みる本作。不平等や無配慮に気付くのはそれによって不利益を被っているマイノリティに偏り、マジョリティは自覚することすら難しい構造に、演劇作品で切り込みます。2022年にリーディング公演として上演された作品が、さらなるブラッシュアップを経て、京都で上演されます。

舞台は、そこら中に穴の空いている世界……。穴に落ちる人は自分の責任で落ちたことにされる世界で、その穴を開けるのは落ちることのない人なのであった。あるとき、穴に人が落ちるところを目撃したAは、落ちた人の話を聞き、世界にある穴を閉じようとするが……。

トリコ・Aが、現代の社会状況を鋭く照らしだします。

脚本・演出：山口茜

出演：大石英史、おぐりまさこ（空宙空地）、佐々木ヤス子（サファリ・P）、関戸哲也（空宙空地）、長沼航（ヌトミックノ散策者）、福谷圭祐（匿名劇壇）、三田村啓示



山口茜 Akane Yamaguchi

劇作家、演出家。合同会社 stamp 代表社員。2003年、第10回 OMS 戯曲賞大賞を受賞。2007年、若手演出家コンクール 2006 最優秀賞を受賞。2007年から2009年までの2年間、文化庁新進芸術家海外留学制度研修員としてヘルシンキ（フィンランド）に滞在。帰国後、活動を再開する。2012年文化庁芸術祭新人賞を受賞。2013年、龍谷奨励賞を受賞。2015年、利賀演劇人コンクール優秀演出家賞一席受賞。アトリエ劇研アソシエイトアーティスト（2015年度～2017年度）、セゾン文化財団シニアフェロー（2016年度～2018年度）、龍谷大学非常勤講師（2010年～）、高槻シニア劇団恍惚一座講師（2012年～）。

トリコ・A torico.A

山口茜が手掛ける劇作および演出作品の上演を目的に、公演の都度、出演者・スタッフを集めて活動する。東京国際芸術祭リージョナルシアターシリーズ、精華小劇場オープニングイベント、大阪市立芸術創造館クラシカルネサンス、愛知県芸術劇場演劇祭、アトリエ劇研演劇祭、文化庁芸術祭などに参加。近年はアクセシビリティサービスとして、無料の託児サービス、聴覚障害の方のための字幕サービスなどを実施。今後、音声ガイド等取り扱うサービスを広げていきたいと考えている。

チケット情報

全席自由

一般 4,000 円、18 歳以下 1,000 円、障がいのある方 2,500 円（同伴の介助者 1 名無料）、初日割 3,300 円

[2025年1月17日（金）チケット一般発売開始]

主催：合同会社 stamp

共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

企画製作：合同会社 stamp

<他地域での公演>

東京公演 2025年3月14日（金）～16日（日） 座・高円寺

提携：NPO 法人劇場創造ネットワーク

劇場の学校

主催

演劇

舞踊

美術・映像

日程：7～8月（予定）



© 金サジ (umiak)

2019年度からスタートしたロームシアター京都の「劇場の学校」。6年目は「演劇」「ダンス」「メディア表現」のコースを設け、国内外で活躍するアーティスト等が講師を務めます。各分野の表現について、参加者自身が身体を動かし、考え、ともに「創る」ことに取り組みます。また、コースに関連した多様なオープンクラスも実施します。

ダンスコース



© Bea Borgers

倉田翠 Midori Kurata

1987年三重県生まれ。京都造形芸術大学(現・京都芸術大学)映像・舞台芸術学科卒業。3歳よりクラシックバレエ、モダンバレエを始める。京都を中心に、演出家・振付家・ダンサーとして活動。作品ごとに自身や他者と向かい合い、そこに生じる事象を舞台構造を使ってフィクションとして立ち上がらせることで「ダンス」の可能性を探求している。2016年より、倉田翠とテクニカルスタッフのみの団体、akakilike (アカキライク)の主宰を務め、アクターとスタッフが対等な立ち位置で作品に関わる事を目指し活動している。令和5年度京都市芸術新人賞受賞。セゾン文化財団セゾン・フェロー。2024年4月より、まつもと市民芸術館 芸術監督(舞踊部門)。

演劇コース



photo : Yuki Moriya

和田ながら Nagara Wada

京都造形芸術大学(現・京都芸術大学)映像・舞台芸術学科卒業、同大学大学院芸術研究科修士課程修了。2011年2月に自身のユニット「したため」を立ち上げ、京都を拠点に演出家として活動を始める。主な作品に、作家・多和田葉子の初期作を舞台化した『文字移植』、妊娠・出産を未経験者たちが演じる『擬娩』がある。美術、写真、音楽、建築など異なる領域のアーティストとの共同制作も多数。2019年より地図にまつわるリサーチプロジェクト「わたしたちのフリーハンドなアトラス」始動。多角的アトスペース・UrBANGUILD ブッキングスタッフ。NPO法人京都舞台芸術協会理事長。

メディア表現コースもあり

<オープンクラス>

やなぎみわ(美術作家・舞台演出家)

越智雄磨(東京都立大学人文科学研究科准教授)

ロームシアター京都 舞台技術課スタッフ 他

主催：ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

**小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XXI
子どものためのオペラ ヴェルディ：歌劇「椿姫」より
ローム クラシック スペシャル**日程：2025年3月
会場：メインホール

主催

音楽



©上仲正寿

毎年恒例となった、京都府内の小学生を対象としたオペラ公演です。本公演と同じ舞台上で繰り広げられる、迫力あるオペラの上演（一部抜粋）は、オペラ鑑賞が初めての子どもたちも、楽しく体験できる機会となっています。

創設者／永久音楽監督：小澤征爾

指揮：ディエゴ・マテウス（小澤征爾音楽塾首席指揮者）

管弦楽：小澤征爾音楽塾オーケストラ

キャスト：後日発表

チケット情報

京都府内の小学生6年生を対象にした学校単位での招待公演です。

主催：小澤征爾音楽塾／ヴェローザ・ジャパン、京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

共催：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

協賛：ローム株式会社

企画・制作：ヴェローザ・ジャパン

舞台芸術プロデュース講座～演劇・ダンス編～

日程：11月～2025年1月（予定）

会場：ロームシアター京都、
京都芸術センター 他

主催

企画プロデュース・マネジメントを学ぶ 未来のプロデューサーへの第一歩

地域の舞台芸術のプロデュース／企画制作領域の専門人材の育成プログラム。強力な講師陣を迎え、舞台芸術プロデュース、舞台制作、マネジメントに関するレクチャーとワークショップを開催します。演劇やダンスをプロデュースする仕事とは、企画はどのようにつくられていくのかなど、社会と舞台芸術をむすぶ制作者たちのシゴトのイロハから、舞台芸術における「プロデュース」のさまざまなカタチを知り、未来の舞台芸術について考える講座です。

対象：18歳以上の舞台芸術プロデュース、マネジメントに興味を持っている方。舞台制作業務に携わっている方。自身の団体等で運営・企画に携わっている方など。経験不問。

※「通し受講」については、講座日に概ね参加できる方。

※オンライン受講は予定しておりません。

受講料：通し受講 6,000円（初回納入）、単発受講 1,000円

定員：通し受講 20名（申込多数の場合は抽選）、単発 10名程度（先着順）

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、KYOTO EXPERIMENT、NPO 法人京都舞台芸術協会、京都市

ロームシアター京都×京都市ユースサービス協会連携事業 未来のわたし - 劇場の仕事 -

主催

日程：通年



体験から描く、未来のキャリアデザイン

ロームシアター京都と京都市ユースサービス協会の連携事業として実施し、2024年度で8年目となります。本事業は、15～30歳の若者を対象に、ロームシアター京都を職業体験の場として活用したもので、現役職員から制作基礎知識等を学ぶ講座や、実際の公演の観客誘導や受付、創作現場の稽古場サポート等の体験を通して、劇場の仕事に触れます。これまでの参加者からは「チームの情報共有はお客さまの満足感につながると知った」「どのスタッフも細かいところまでこだわりぬいて舞台が作られることに感動した」などの感想を得ました。このプログラムを通して、参加者が、劇場や舞台芸術の現場にとどまらず、自分のキャリアデザイン「仕事を通じて実現したい将来像やそれに近づくプロセスを意識してもらうこと」を目的にしています。

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、公益財団法人京都市ユースサービス協会、京都市

リサーチプログラム

主催

日程：通年

※ 2025年3月に最終報告会を予定

ロームシアター京都では、プログラム策定のためのリサーチ、舞台芸術に関わる研究・批評分野と実践の場をつなげる若手人材の育成を目的に、テーマである「現代における伝統芸能」「子どもと舞台芸術」「舞台芸術のアーカイブ」、そして自由テーマのリサーチャーを募集します。

メンター：吉岡洋（京都芸術大学文明哲学研究所教授）、若林朋子（立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科特任教授、プロジェクト・コーディネーター）

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

ホリデー・パフォーマンス

日程：Vol.15 展示 | 7月22日(月)～28日(日)
パフォーマンス | 7月28日(日)
Vol.16 11月10日(日)
Vol.17 2025年2月(予定)

主催 音楽 演劇 美術・映像

会場：パークプラザ3階共通ロビー、プロムナード 他

Holiday Performance

日常にアートにふれる機会を

音楽をはじめ、美術や演劇など様々なジャンルのパフォーマンスを無料で楽しみいただけるシリーズです。

アーティスト

Vol.15 レトロニム

Vol.16 おおしまたくろう

Vol.17 未定



レトロニム RETRONYM

瀬戸沙門（俳優）、武内もも（陶芸 / 美術家）、野村真人（演出家）からなる京都のアート・コレクティブ。劇団という集まりの単位から形を変え、2022年から無料演劇雑誌『スーパーリラックス』の編集・発行を中心に集まる現在の形となる。

都市や生活の中ですでに起こっている現象や経験している出来事、観客 / 観客席といったキーワードから再び演劇を見直すことに関心を寄せ、誌面との連動の中でパフォーマンス作品や展覧会を通じた実践にも取り組んでいる。

近年の活動に、『ルーム・ダビング』シリーズ(2020~/SCOOOL, 愛知県芸術劇場, 金沢市犀川河川敷 ほか)、『景観と風景、その光景(ランドスケープとしての字幕)』シリーズ(2020~/京都市内路上, 城崎国際アートセンター周辺 ほか)、『サーチ・エンジン』(2023/ ロームシアター京都)などのパフォーマンス、グループ展『(ひとり入ったらその分溢れる) プールのサイド』(2022/ わいわいぱ〜く, 京都)、グループ展『ピジター・キュー』(2023/ 山中 duplex の別棟「MINE」, 大阪)のキュレーションなどがある。



おおしまたくろう Takuro Oshima

サウンドマン。PLAY A DAY をモットーに、日常の道具を改変した楽器の制作と、それらを組み合わせた少し不思議な音楽活動を行う。音楽や楽器の名を借りた遊びやユーモアによって社会をマッサージする。音の実験ワークショップ「SOUND やろうぜ」主宰。近作にスケートボードとエレキギターを合体させて街のカタチを演走する「滑琴(かっきん)」、映像におけるマイキングを演奏行為と捉えてマイク奏者の動きを作曲する「擬似耳人(ぎじじじん)」など。

チケット情報

無料、申込不要

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

プレイ！シアター in Summer 2024 ステージプログラム
ミッドナイトシアター 『はじめての一步』
from アイスランド

主催

演劇



日程：7月20日（土）11:00/14:00 開演
21日（日）11:00 開演
会場：ノースホール



© Eythor Arnason

アイスランドからやってくる、こどもとおとなが一緒に楽しむ、セリフのない音楽劇

アイスランドの劇団ミッドナイトシアターと、イギリスの劇団ロスト・ウォッチによる国際共同制作「はじめての一步」。文楽とオブジェクトパペトリーにインスパイアされて作られたこの作品は、鮮やかな視覚的要素とフォーク/カントリー・ミュージックから影響を受けた音楽で綴られる、ノンバーバルな作品です。

ニンナは冒険といたずらが好きな5歳の女の子。お父さんのもとを離れて、はじめての田舎暮らしに出発します。新しい世界に踏み出すニンナの仲間は、犬のスナティや動物たち。好奇心いっぱいのニンナの物語を、人形や小道具を使って鮮やかに描く、セリフのない音楽劇です。

出演（予定）：リアナ・ディアデン、オリヴィア・ハースト、キャルタン・ダリ・クリスチャンソン、
ニック・キャンディ、マルグレット・アルナルドットイル、シグルン・ハルザードットイル
脚本：アグネス・ワイルド and カンパニー
演出：アグネス・ワイルド
音楽・演奏：シグルン・ハルザードットイル、マルグレット・アルナルドットイル
舞台美術・人形製作・衣装：エヴァ・ビョルグ・ハルザードットイル
照明デザイン：キャルタン・ダリ・クリスチャンソン

ミッドナイトシアター

MIDNÆTTI
Midnight Theatre Company

俳優で演出家のアグネス・ワイルド、演奏家のシグルン・ハルザードットイル、舞台美術家のエヴァ・ビョルグ・ハルザードットイルによって結成。3名は異なる芸術バックグラウンドから集まっており、美術、演劇、音楽が等分の価値をもって融合されているのが特徴。2017年には、アイスランドの「最優秀児童演劇」と「最優秀振付」を受賞。

チケット情報

全席自由 こども 500 円、おとな（18歳以上）1,800 円、こども+おとなペア 2,000 円
[5月18日（土）チケット一般発売開始]

おすすめ年齢：2歳以上（0歳からご入場いただけますが、会場内は暗くなります）

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市
協力：2024 国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ（愛称：りっかりっかフェスタ）
特別協賛：ローム株式会社

<他地域の公演>

那覇公演 7月24日（水）～26日（金）予定（りっかりっかフェスタ）

プレイ！シアター in Summer 2024 オープンデー

日程：8月12日(月・休)～14日(水)
17日(土)、18日(日)

主催 音楽 演劇 舞踊 美術・映像

会場：全館



2023年の様子 撮影：山地憲太

今年も開催！家族や友達と楽しめる、ロームシアター京都の夏休み恒例イベント

“劇場で遊ぼう”を合言葉に、毎年たくさんの子どもたちが集まる大好評企画「プレイ！シアター」。音楽、落語などのパフォーマンスをみたり、楽器体験や様々なワークショップに参加したり、劇場で過ごす1日を楽しんでいただける企画です。

チケット情報

無料、申込不要 ※一部有料、要申込

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市
特別協賛：ローム株式会社

<関連企画>

プレイ！シアター in Summer 2024 ステージプログラム
ミッドナイトシアター『はじめての一步』from アイスランド
日程：7月20日(土)、21日(日)
→ 前項参照

プレイ！シアター in Summer 2024 オープンデー 京都市交響楽団 0歳からの夏休みコンサート

日程：8月17日(土)
11:00/14:00 開演
会場：メインホール

主催 音楽



撮影：山地憲太

毎年恒例となった、0歳から参加可能な、京都市交響楽団によるオーケストラコンサート。今年は tuperu tuperu の絵本とオーケストラがコラボレーションします。

指揮：和田一樹
管弦楽：京都市交響楽団
演出：ごまのはえ
絵本：tuperu tuperu

チケット情報

全席指定
小学生以上 800円、未就学児無料
[6月23日(日) チケット一般発売開始]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市 特別協賛：ローム株式会社

全京都洋舞協議会 65周年記念公演

共催

舞踊

日程：9月1日（日）全2回公演
会場：サウスホール

京都が誇る振付家・故石井潤の創作バレエの他、新国立劇場バレエ団のプリンシパルをゲストに迎えるクラシック古典作品、モダンバレエ創作作品など、彩り豊かなプログラムです。

チケット情報

席種・料金・発売日未定

主催：全京都洋舞協議会

共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

OKAZAKI PARK STAGE 2024

主催

日程：9月28日（土）～10月27日（日）予定
会場：ローム・スクエア

撮影：中谷利明

ロームシアター京都の中庭「ローム・スクエア」を会場に、今年も秋の賑わいを創出します。毎年おなじみの岡崎地域を中心とした市民ステージや、アーティスト小山田徹との焚き火のほか、公募参加のパフォーマンスも行います。



小山田 徹 Toru Koyamada

アーティスト。1961年鹿児島に生まれる。京都市立芸術大学日本画科卒業。84年、大学在学中に友人たちとパフォーマンスグループ「ダムタイプ」を結成。ダムタイプの活動と並行して90年から、さまざまな共有空間の開発を始め、コミュニティセンター「アートスケープ」「ウィークエンドカフェ」などの企画を行うほか、コミュニティカフェである「Bazaar Cafe」の立ち上げに参加。京都市立芸術大学教授。

チケット情報

無料、申込不要

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

協力：京都市岡崎いきいき市民活動センター

ユスカル！～若者文化市～ 2024

主催

日程：11月3日（日・祝）全1回
会場：ローム・スクエア 他

「ユスカル！」とは、「ユース・カルチャー」の略称。【若者のミカタ】をテーマに、若者の多様な営みを文化と捉え、イベントを通じてその活動の一端を知ってもらうことを目的とした若者文化発信イベントです。若者文化を「面白い・身近なもの」「応援したい（見方・味方）」と共感いただけることを目指すとともに、出演・出店する発信者自らが若者を応援する若者になっていく機会となることも企図しています。

お問合せ：ユスカル！事務局 京都市東山青少年活動センター 075-541-0619

主催：公益財団法人 京都市ユースサービス協会、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

ロームシアター京都×京都市文化会館連携事業
「シアターデビュー！」促進プログラム

ナイブ二人形劇場

『こいぬと機関車 -CHOO.CHOO.WHISTLE.WOOF!-』

from チェコ

主催

演劇



日程：① 12月7日（土）11:00 / 14:00 開演

② 12月8日（日）11:00 / 14:00 開演

会場：①京都市西文化会館ウエスティ 創造活動室

②京都市東部文化会館 創造活動室

ロームシアター京都と京都市内の文化会館が協働し、未就学児向けの作品上演を行う本企画。地域の子どもたちが初めて劇場に足を運ぶ＝「シアターデビュー！」の機会と、子どもとおとなが一緒に楽しめる場をつくることで、地域コミュニティと劇場の結びつきを深めることを目指しています。



アンサンブルによる良質な人形劇をつくり続けるチェコの「ナイブ二人形劇場」による、心温まる作品をお届けします。仲良くなった友達を探すため、機関車によって旅に出かける一匹の子犬の冒険譚。見知らぬ土地で出会う新しい犬たちとの交流と再会の物語を、セリフのないノンバーバルの人形劇でお楽しみいただきます。

作：ヴィト・ペジナ&コレクティブ

演出：ミハエラ・ホモロヴァ

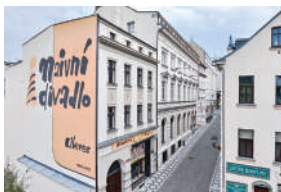
音楽：フィリップ・ホモラ

出演：フィリップ・ホモラ、アダム・クビシュタ、マレク・シコラ、アントニン・ティマル



ナイブ二人形劇場 Naivní divadlo Liberec

1949年に設立。旧チェコスロバキアにおける歴史ある人形劇専門劇場のひとつであり、現代チェコ人形劇を代表する人形劇団のひとつ。チェコ・リベツ市庁舎から数十メートル離れた街の中心部にあり、年間300以上の公演で、チェコ国内外含め約5万人の観客を動員しています。専属の演出家がないため、さまざまな作家・アーティストと作品づくりをおこなっているのも特徴です。子どもや青少年向けの人形劇やアートパフォーマンスに力を入れ、絵本や童話といった原作のある作品も重視し、70年以上にわたり観客や専門家の記憶に残る質の高いチェコの人形劇を発表し続けています。また、1970年代からリベツで「マテジнка・フェスティバル」（主催：ナイブ二人形劇場）を2年ごとに開催。未就学児のための人形劇に焦点を当てた、中央ヨーロッパで唯一の国際フェスティバルであり、チェコ国内をはじめ、ヨーロッパ各地から人形劇団やフェスティバルディレクターたちが集まります。2018年2月の初来日では、「空からきたひつじ」を大阪、飯田、木更津で上演し、子どもたちが好きなファンタジーの世界が繰り広げられた人形劇で好評を得ました。



チケット情報

全席自由

子ども 500円、おとな（18歳以上）1,000円

[9月28日（土）チケット一般発売開始] ※おすすめ年齢：2歳以上（0歳からご入場いただけますが、会場内は暗くなります）

主催：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団（ロームシアター京都、京都市東部文化会館、京都市西文化会館ウエスティ）、京都市

制作協力：特定非営利活動法人いいだ人形劇センター

<他地域での公演>

大阪公演 11月23日（土・祝）（大阪府堺市）

長野公演 11月29日（金）、30日（土）（長野県飯田市）

東京公演 12月2日（月）（東京都）

I となりの劇場 ～シニア向け演劇ワークショップ～

日程：通年
会場：京都市内の高齢者施設

主催

ロームシアター京都が企画・実施するアウトリーチ事業です。演出家のごまのはえを講師に迎え、演劇の手法を使ったワークショップを行います。京都市内の高齢者施設や集会へ出向き、公共劇場として、創造性豊かな地域づくりへの貢献を目指しています。



撮影：脇田友

ごまのはえ Gomanohae

劇作家、演出家、ニットキャップシアター代表。1977年大阪府生まれ。1999年、自身が劇団代表となって「ニットキャップシアター」を設立。以来、京都を創作の拠点に日本各都市で公演をおこなっている。楽器や仮面など様々な表現手段でイメージーションあふれる表現を追求する一方、「街の記憶」をテーマに地域の歴史や文化を題材にした創作もおこなっている。2004年『愛のテール』でOMS戯曲賞大賞受賞。2005年自身の故郷大阪府枚方市を題材にした『ヒラカタ・ノート』でOMS戯曲賞特別賞および新・KYOTO演劇大賞受賞。2022年サハリン（樺太）の100年の歴史を描いた『チェーホフも鳥の名前』で希望の大地の戯曲賞「北海道戯曲賞」大賞を受賞。一般社団法人毛帽子事務所役員。一般財団法人地域創造派遣アーティスト。

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

I アセンブリープログラム

主催

日程：通年

劇場文化を育むための入り口として、気軽に参加できるワークショップや、多様な角度から同時代の社会を知り、捉え直すためのトピックを挙げ、それにまつわるゲストを招くシリーズ企画「いま」を考えるトーク」などのプログラムを開催します。

I WEB マガジン 「Spin-Off (スピノフ)」

SPIN-OFF

by ROHM Theatre Kyoto

<https://rohmtheatrekkyoto.jp/spin-off/>

ロームシアター京都の自主事業（劇場自らが企画あるいは招聘し、主催または共催としておこなう事業）の上演・実施において、企画の趣旨や魅力、それらの背景を紹介するプラットフォームとしてWEBマガジンを発行しています。

作品に関するインタビューやコラム、上演した公演やトークイベントのレポートやレビューを掲載するほか、社会と芸術にまつわる多様なテーマに基づくコラムも掲載します。上演の場所としてだけでなく、思考するメディアとしてのロームシアター京都のすがたを蓄積していきます。また、若手の書き手への公演レビューの執筆・掲載にも取り組み、あらたな出会いを通して関西圏の舞台芸術シーンにおける批評の活性化をめざします。

音楽総合体験施設 ミュージックサロン

場所 パークプラザ3階



ミュージックサロンは、音楽とさまざまな形で触れあえる施設です。本格的な音響施設を備えた120インチスクリーンでのオペラ等の鑑賞や、音楽家によるコンサート、専門家によるセミナーなど随時開催しています。

入場無料 ※一部整理券が必要な場合あり

共同運営：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団、公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
共催：ローム株式会社

アクセシビリティ情報

当館では以下の通りアクセシビリティに関するサポート・設備をご用意しています。
ご利用については下記【お問合せ先】までお問合せください。

I 観劇サポート

ロームシアター京都自主事業では、お客様の観劇に際して以下の観劇サポートを実施いたします。

対象公演の各情報欄にマーク（  ）を記しています。

みえない・みえづらいお客様へ

音声ガイド



音声ガイドとは、舞台の美術や照明、また登場人物の動きや身につけているものについてリアルタイムで解説し、その解説音声を受信機から専用受信機へ送ることで、舞台の生音を耳で聞きながら、受信機からの副音声と同時に聞いていただけます。

きこえない・きこえづらいお客様へ

ポータブル字幕機



ポータブル字幕機では、出演者が発話するセリフを文字としてご覧いただけます。セリフ以外にも効果音や物音、音楽が流れているかなども場面に合わせて表示されます。舞台とお手元のポータブル字幕機、両方を見ながらご鑑賞ください。

ヒアリングループ



ヒアリングループとは、舞台付近で集音した音を送信機から専用受信機へ送ることで、舞台の音をクリアに聞くことができるシステムです。磁気コイル付補聴器・人工内耳を装着の方は、専用受信機がなくても送信機からの音を受信していただけます。

I 施設におけるバリアフリーサービス

バリアフリーに配慮した設備とサービスをご用意しています。

車椅子を利用されるお客様へ

メインホール、サウスホールには、車椅子をご利用のまま観覧できる車椅子スペースがございます。劇場備え付けの車椅子のお貸出しも可能です。

福祉専用駐車場

車椅子をご利用の方や移動が困難な方などにご利用いただける福祉専用駐車場（2台）がございます。


多目的トイレ

館内各フロア（5カ所）およびホール内ホワイエにございます。

設備：オストメイト対応、おむつ交換台、ベビーチェア、多目的シート（約150cm×60cm、1階プロムナード北側の多目的トイレのみ）

I 託児サービス



ロームシアター京都自主事業では、小さなお子さまをお連れの方も安心してゆっくりと舞台をお楽しみいただけるよう、託児サービスを実施いたします。対象公演の各情報欄にマーク（）を記しています。

対象年齢：3か月～就学前

料金：有料1,000円（税込）／1公演／お子さま1人あたり ※一部料金の異なる公演がございます。

※お申込・詳細についてはロームシアター京都 WEB サイト（各公演ページをご確認ください）

お問合せ先

ロームシアター京都

Tel. : 075-771-6051 Fax : 075-746-3366 Email : accessibility@rohmtheatrekkyoto.jp

Fax/Email の場合、以下の通りお知らせください。内容確認後、こちらからご連絡いたします。

件名：「アクセシビリティについて」

①お名前 ②ご連絡先 ③お申込・ご質問内容